

富山市民国際交流協会

Toyama Cosmopolitan Association

TCA 10年のあるみ



2003. 3

富山市民国際交流協会

TCA 10年の歩みをふり返って



富山市民国際交流協会
会長 久保田 照雄

昨年9月21日・22日の両日、当協会恒例の国際交流フェスティバルが開催されましたが、この機会に、とやま国際センター主管でギニア共和国のサンコンさんを呼んでの講演会が開催されました。

不自由な足を引きづりながら身ぶり手ぶりを交えた熱弁でしたが「知り合いが一人もいなかった日本で、私が今までやってこれたのは一人ひとりとの付き合いのお陰です。国際交流とは個人を通じて相手国を知ることです。」と結論づけましたが、単純のようですが体験に裏打ちされた実感が滲み出ていました。

富山市民国際交流協会が設立されてから早くも10年、この間の活動を通じての感想は、サンコンさんの言う通り個人と個人の交流を通じ相手国の伝統・文化を理解し、友情を深めてきた、といい得ると思います。

当協会が設立され、その趣旨は市民中心でボランティア精神にのっとり広範に国際交流を進めていくということでしたが、具体的にどのように展開するか全く白紙の状態であり、よくいわれるよう海図なき航海でした。

取り敢えずテーマ別に委員会を設け、各委員の手さぐりのボランティア活動で出発しました。

多くの試行錯誤を繰り返し、失敗にめげず挑戦を重ねるうちに自ら一つの流れができ、血の通った厚味のある活動に結実してきております。当協会の活動の特色は何かと問われるなら、それはケース・スタディーの積み上げであり、手づくりの活動であると答えたいと思います。

従いまして外からはなかなか活動の実相は見え難い、実際に中に入り自ら活動することによって体得できるものであります。

現状、気がついて見ると多面的な分野で活動を展開しておりますが、ここまで育てあげてきた会員一人ひとりのボランティア活動にあらためて敬意を表したいと思います。

富山市民国際交流協会設立10周年に寄せて



富山市長 森 雅志

このたび、富山市民国際交流協会におかれましては、設立10周年を迎えるとともに、ここに記念誌を発刊されますことを心からお祝い申し上げます。

貴協会は、富山市民と諸外国の人々との相互理解を深めるとともに、教育、文化、スポーツ、産業・経済等の広範な分野で国際交流活動を推進し、国際感覚豊かな人材の育成と国際化に対応した魅力あるまちづくりに寄与することを目的に、平成5年（1993年）1月に設立されたものであります。

この間、「姉妹友好都市などへの訪問団の派遣」をはじめ、「外国人との交流イベントの開催」や「日本伝統文化の紹介」、さらには「各種語学講座の開講」、「ボランティア活動家の養成」など、多彩な事業を実施され、会員一人ひとりが国際交流や国際協力の担い手となって、活発に取り組んでおられますことに対しまして、深く敬意を表する次第であります。

本市いたしましては、今後とも姉妹友好都市をはじめとした諸外国並びに市内に在住される外国人の皆様との交流を積極的に進めるとともに、「外国人の方々にも住みやすいまちづくり」を目標に、貴協会と密接に連携を図りながら、各種施策の推進に取り組んでまいりたいと考えておりますので、一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

終わりに、富山市民国際交流協会が、本市の国際交流事業を推進するための中心的な組織として、限りなく発展されますことを心からご期待申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

目 次

設立10周年を迎えて

設立10周年を祝して

1 T C A 10年の足跡と新たな歩み

(1) 協会設立の趣旨・組織図 シンボルマークの由来・意義	6
(2) 活動を振り返って	7
(3) 関係者の思い出	15
(4) 富山市の国際化政策について	17
(5) 外国人が語る富山の魅力と期待	18
(6) 姉妹都市からのメッセージ	22
(7) 事務局からのメッセージ	23
2 座談会「10年の足跡と将来展望」	26
3 10周年記念事業	34
4 交流協会概要	38
5 富山市民国際交流協会のあゆみ	42
6 事業内容	46

資 料 集

(1) 協会の歴代役員名簿	52
(2) 協会規約	53
(3) 富山市民国際交流協会・秦皇島市人民対外友好協会 友好親善奨学金制度に関する協定書	56
(4) 会員の推移、国内外研修について	58
(5) 富山県外国人登録国籍別市町村別人員表	59
(6) 県・市町村の姉妹（友好）提携状況	60

1 TCA 10年の足跡と新たな歩み

(1) 協会設立の趣旨・組織図、シンボルマークの由来・意義

◆設立趣旨

富山市における国際交流活動は、姉妹友好都市との交流を中心に、その輪が広がってきましたが、近年、急速な国際化の進展にともない、行政の枠を越えた地域や市民を中心とした「草の根」レベルでの様々な交流活動が行われるようになってまいりました。

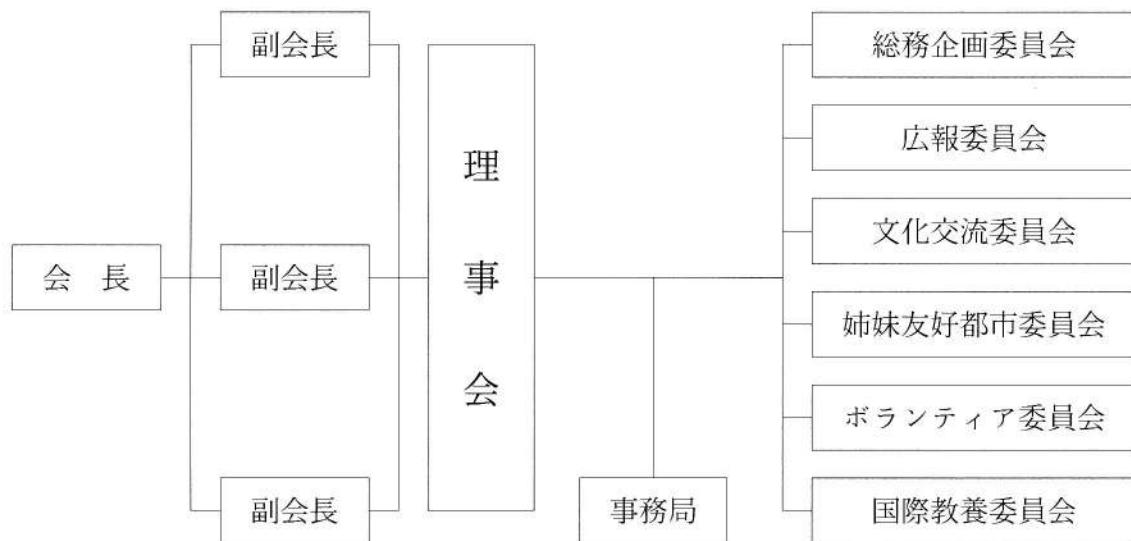
また対話と協調の時代を迎えた国際関係は、相互依存の関係をますます深めるとともに、環境問題や資源・食料問題など、一国だけでは対応できない地球規模の課題を生み出してまいりました。

こうした中で、富山市民と諸外国の人々とによる友好親善を基調とし、教育、文化、スポーツ、産業経済等の広範囲な国際交流を推進し、そのネットワークを拡大していく事は私たちに課せられた大きな任務であり、時代の要請でもあります。

このためには、国際交流に関する団体、機関、企業の参加のもと、行政と共に手を携えて、ボランティア精神にのっとり自らが計画、実行する市民を会員の中心とした富山市民国際交流協会を設立し、21世紀に向けて魅力ある富山市のまちづくりと国際化に寄与せんとするものであります。

このような趣旨で、富山市民国際交流協会が平成5年1月13日に設立されました。

◆組織図



◆シンボルマークの由来・意義

富山発……

21世紀の時代に、国際親善が進んで平和な世界になるように多くのメッセージを送りたい。

立山と雪は富山をイメージしております。そして、地球……

垣根を越えて理解しあい、交流を深めて、お互いに協力して助け合おう。

——みんな地球家族です。——

(2) 活動を振り返って

- ◆ 国際交流フェスティバル
- ◆ 新春国際交流のつどい
- ◆ 海外研修
- ◆ 国内研修
- ◆ 委員会活動あれこれ

文化交流委員会

広報委員会

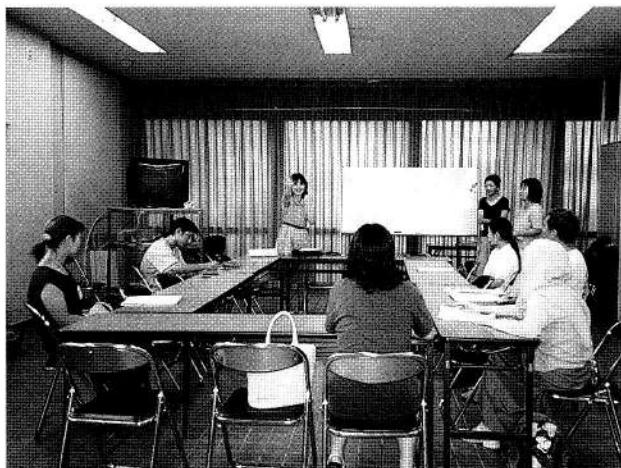
姉妹友好都市委員会

国際教養委員会

ボランティア委員会

総務企画委員会

Looking back over
the past 10 years



国際交流フェスティバル

東アジア国際交流 フェスティバル

～東アジア交流をめざして～



パネルディスカッション



特別参加 韓国「木蓮合唱団」

’95

〈韓国ウィーク〉～韓国との新たな出会い～

1995年10月28日(土) タワー111・スカイホール
1995年10月29日(日) CiCビル5階多目的ホール

基調講演

「日本と韓国の21世紀」

講師 丁 海 龍氏
新亞研究所所長



韓国伝統芸能「パンソリ」

対談

「韓国を聞きたい」

話す人 丁 海 龍氏 基調講演講師
聞く人 小川 弘氏 富山市民国際交流協会監事



交流会で大正琴を奏でる会員

’96

〈21世紀に引き継ぐ日中交流〉

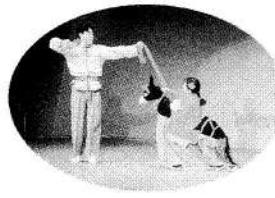
1996年11月23日(土) 富山市民プラザ4Fアンサンブルホール

特別講演

「楽しい旅・そして国際交流」

歌とパフォーマンス

講師 中野 良子氏 女優



「人と人との信頼が美しい
未来を築きます」…と

1999年11月6日(土)・7日(日) 富山市民プラザ&大手モール

観る・聞く

味わう

知る・出会う

体験コーナー



’99

2000年11月11日(土)・12日(日) 富山市民プラザ&大手モール

「アルバとギター 演奏」

& 山田太一氏 講演「小さな体験から」ほか



世界の国から「こんにちは」

2000

2001年11月3日(土)・4日(日) 富山市民プラザ&大手モール



越中五箇山民謡
富山大学留学生&平高校生

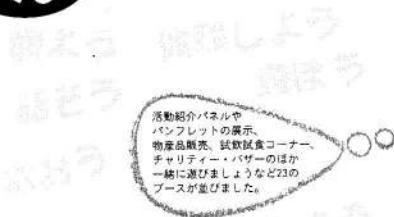


アメリカ縄跳びで遊ぼう
英語国際交流員

2001

’98

1998年10月10日 富山市民プラザ&大手モール



ブース 富山大学マレーシア
留学生協会

’94

1994年10月8日(土) 県農協会館8Fホール
「東アジア国際交流時代を迎えて」

- ・吳 巢煥(オ・ヨンファン) 氏
大韓民国駐日本大使館一等書記官
- ・張 潤北(チャン・ルンペ) 氏
中華人民共和国駐日本大使館
一等書記官
- ・S. V. ワシリエフ 氏
在日ロシア連邦大使館一等書記官
- ・小川 弘氏 コーディネーター

新春国際交流のつどい

春節を祝って '94

1994.2.10 当センター

2月10日は、中国の旧暦正月で、これを「春節」といって、中国では国をあげて賑やかにお祝いします。

この日、当センターでも市内在住の中国人をはじめ、多くの外国人の人たちを招き交歓会を催しました。会員の皆さんとのボランティアで楽しい一時を過ごしました。



手品の袋の中は「なんにもナッシング!!」
でも、出てくる出てくる世界の旗が……
「アッ！中国の旗もあるよー」と大よろこびの子どもたち

95 新春联欢会

1995.2.9 CiCビル5F多目的ホール

中国文化圏の春節（旧暦の1月1日で今年は1月31日です）と元宵節（旧暦の1月15日で今年は2月14日です）にちなんで、心を中国文化に馳せながら富山で「新春联欢会」を楽しみました。

市内在住の中国人の人たちと、いろいろな外国人たちも参加して異文化を理解し合い交流を深めました。



春節联欢会

'96

1996.2.18 富山県職員会館

春節（旧暦の1月1日で今年は2月19日です）と元宵節（旧暦の1月15日で今年は3月4日です）にちなんで、旧暦の大みそかにあたる2月18日に、市内在住の中国人の人たちをはじめ、いろいろな国の人たちを招いて、異文化を理解し合う交歓会で、交流を深めました。

中国文化圏では、旧正月を1年で最も喜びと希望の満ちた日として、国をあげてお祝いをします。魔よけの爆竹やドラを鳴らして、大人も子供もみんな大騒ぎして楽しめます。

交歓会では、爆竹やドラはありませんが、会食しながら、カラオケや情報交換等で、楽しい一時を過ごしました。



金食しながら楽しいひととき

改称しました!! 新春国際交流のつどい

'97

1997.2.1 CiCビル5F多目的ホール

当協会では昨年までは中国文化圏の春節と元宵節にちなんだ「春節联欢会」で交流を楽しみましたが、今年はできるだけ多くの外国人の人たちが一緒に集い、異文化を理解し合い、交流を深められるようにと「新春国際交流のつどい」として開催しました。



いろいろの国の人たちと共に新春を祝い、カラオケや日本舞踊をたのしみ、最後に「Jenka」のダンスで一つの輪になって交流と親睦を深めました。

2000.2.5

CiCビル5F多目的ホール

MILLENNIUM、記念の年、新千年紀の節目の“2000年”を世界中の人たちと祝おうと開催されました。富山在住の中国、韓国、インド、バングラデシュ、アメリカ、カナダ…等々100余名の参加者たちは、それぞれ楽しく交流し友情を深めました。

今回の交流会は、一緒に歌ったり体を動かしたりして「non-alcohol」で参加型のパーティーを楽しみました。

2000



大晦日のつどい 2000

日本舞踊「蓬莱」を華やかに披露
花柳源香さん

'98

1998.2.1 ポルファートとやま

富山在住の外国人・留学生と協会員たち200余名が集まり、それぞれの国の言葉で乾杯し、各国自慢の手作り料理がテーブルにならび、楽しく美味しく、にぎやかに交流しました。料理コンテストや母国の歌の紹介のあと、みんなで「わ」になっておどろう”を歌いました。



1999.2.6

CiCビル5F多目的ホール

富山在住の中国・韓国・ブラジル・アルゼンチン・バングラデシュ・インドネシア…等々100余名の人たちと1999年も希望に満ちた年であることを願いながら、異文化理解の交流会を催し、友だちの輪を広げました。



'99



外国人カラオケ大会 審査員はマシンだよ！

2001

2001

CiCビル5F多目的ホール

「新世纪をみんなで祝おう！」と世界各国からの富山在住の外国人の人たちと会員らは楽しく交流し友情を深めました。

はじめに、たっぷりと「観る」ステージを楽しみ、それからおいしい「食交流」、ピンゴや、節分当日とあって豆まきをして「遊び」、鬼の面をかぶった子供たちが逃げまわったりして楽しんでいました。また、「体验コーナー」では、書道や折り紙、越中玉すだれなどを指導を受けながらやってみて、出来栄えに大喜び。カラオケコーナーも大人気でした。



〈書道〉

2002

2002.1.12

CiCビル5F多目的ホール

「世界中が平和で、明るい希望の年となりますように…」と願いながら、富山在住のアメリカ、中国、韓国、ブラジルなど19ヵ国の外国人の人たち約80人と会員らの150人が集い、踊りやゲームなどを一緒に楽しんで親睦を深めました。

1月11日の「鏡開き」にちなんで「鏡開き」の説明のあと、ぜんざいが配られ日本のお正月の風習をおいしく味わいました。

マレーシアの留学生たちによる民族舞踊「ディキル・バラット」などステージや、全員でおわら踊りの輪おどりを楽しんだ後は、アメリカのすごろくなどのゲームや輪投げに挑戦したりしながら交流の輪を広げました。



“こきりこ&越中おわら踊り”を輪踊りで楽しむ

海外研修

秦皇岛市友好訪問

1995. 9. 23～9. 29

昭和56年5月に友好都市締結して以来、初めての市民レベルの交流の先駆けとして訪問しました。中国の悠久の歴史と広大な自然にふれて感動し、何度もレッスンをした「草原情歌」を披露したり、交流と親善を深めました。



日本語を学ぶ学生に対する
奨学金支給協定書の調印式

友好都市親善訪問

1998. 9. 15～9. 22

2度目の秦皇岛市訪問となりました。同市の表敬訪問をはじめ、歴史や観光を楽しんだり、団碁交流を通して、新たな友好関係の絆を深めました。



“你好”
“熱烈歡迎”

団碁交流

平成6年につづいて2回目となる団碁交流は、和らかに真剣に対局が行われ、言葉が通じなくても盤面で話すことができた素晴らしい交流でした。

いちばん近い国韓国友好訪問

1997. 9. 6～9. 10

韓国慶尚南道中部・産業経済の中心地、昌原市を訪問しました。表敬訪問した市役所や慶尚南道韓日親善協会の方々から温かい歓迎を受けました。



懇親会では日本語のできる方が多く話題も豊富で、特徴あるアクセントもより一層親しみを増しました。

慶一高校の先生と
松茸料理で懇親交流

多民族国家マレーシア魅力の旅

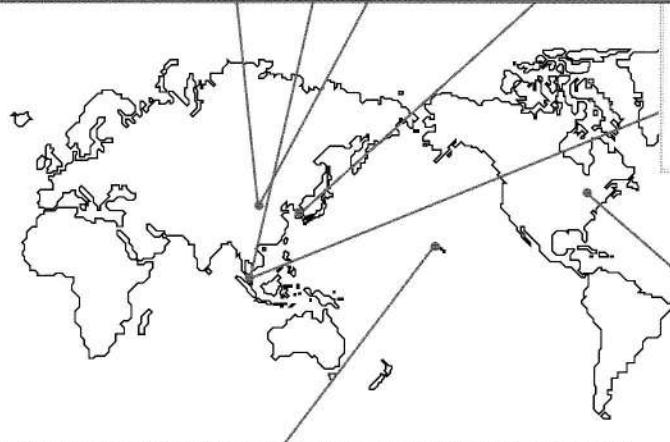
2000. 2. 8～2. 13

「マレーシア日本語協会」、富山市内企業の「立山オートマシンマレーシア工場」を訪問しました。観たり、買ったり、食したり、感じたり、交流したりと友好の絆を深めました。



マレーシア日本語協会

リーダー会長「この訪問をきっかけに絆が深まり、両協会がより良い関係を築いていくことを期待します」と…。



「ハワイ日系人連合協会」との友好のかけ橋に

2001. 2. 9～2. 13

「ハワイ日系人連合協会」では、1868年から今日までの日本人移民の夢や誇り、苦難そして努力など日系人のドラマチックな歴史について学び感動しました。創立ハワイ日本人学校「レイクボーン学園」(生徒数379名)を訪ねました。この学園は、原則として毎週土曜日のみ開園する私立の補習校です。

また、訪問中に実習船「えひめ丸」の事故という悲惨な出来事に遭遇しました。



2001. 2. 25 北日本新聞

草の根交流タイ・シンガポールの旅

1997. 2. 19～2. 24

これまでの姉妹都市や友好都市との訪問から、市民レベルの草の根交流としてタイ・シンガポールを訪問しました。



星日文化協会にて陸学院長の説明を受けました

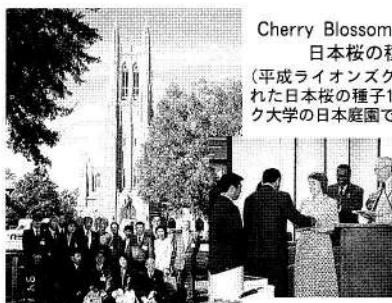
タイでは、合弁会社「YKKタイ社」を訪ねたり、シンガポールでは、富山市と交流が深い「星日文化協会」や「日本語学院」に学ぶ現地の人たちと交流交歓をしました。

ダーラム市親善訪問

姉妹都市提携5周年記念を市民交流で

1994. 10. 15～10. 24

ダーラム姉妹都市協会を訪ねてボランティア活動や協会の組織運営等の情報交換や交流交歓をしました。ホームステイによるふれあい交流など多くの行事を通して、眞の交流はHEART TO HEARTのつき合いであることに感動しました。



Cherry Blossom in DURHAM
日本桜の種子贈呈

(平成ライオンズクラブから贈呈された日本桜の種子15,000粒をデューク大学の日本庭園で訪問記念に撒く)

ダーラム市の誇るデューク大学にて

国内研修

浦安市の国際交流を学ぼう

1996. 2. 10
当センター

一人でも多くの会員のみなさんが参加して国際交流の先進交流協会の運営、活動を学ぶことができるようになると、当協会へ浦安市国際交流協会の辻村国際交流課長を迎えて、講演や意見交換等を通して他都市の国際交流を学びました。



「市民の参画による国際交流活動の推進」
講師 浦安市総合政策推進室
国際交流課長
辻村 聖子 氏

国際交流担い手ネットワーク会議

1997. 3. 8～3. 9
吳羽ハイツ

国際交流・協力活動に取り組むボランティアの育成・交流を目的に会員等が参加して、第1日目は「地域社会の国際交流」第2日目は「国際交流の在り方・国際ボランティアの輪について」の講演を聴講した後、情報交換や親睦会等が行なわれ、充実した2日間の研修でした。



相手の立場に立って…と講演する井波講師

(財)大垣国際交流協会

1993. 10. 16～10. 17

初めての国内研修でした。
「ボランティアのこころ」と題する市教育長の講演は、人間の価値と足のウラにたとえられる謙虚な精神とのつながりについて話され、ユーモアな語りは、一同の笑いを誘いました。



手作りのお菓子での歓迎会で交流をしました

鯖江市国際交流協会

1994. 11. 26～11. 27

「市民ができる国際交流」について意見交換をしました。専任の職員は一人もいなくて、事務局長はじめ4部会の委員長も総てボランティアの活動で運営されていました。



まず足もとより徐々に…意見交換会

上越国際交流協会 & (財)新潟市国際交流協会

2001. 11. 24～11. 25

上越国際交流協会では、「和魂洋才」と題し、日本人が忘れかけていることを外国人がその良さを発見し、価値を見出しているものに着目したイベントは、とても好評とのことでした。

(財)新潟市国際交流協会では、会員制度がなく、各団体において会員制(会費)を引いていて、イベントは行政と各団体及びボランティアの協力で実施する方式がとらわれていました。



庄内国際交流協会

1998. 11. 22～11. 23

庄内地域で国際交流に活躍する人たちのための「出羽庄内国際村」が1994年鶴岡市に完成し、協会活動の拠点として利用するとともに、他の国際交流団体とも連携しながら全国の国際交流団体との交流も活発に行われていました。



理事の選択や活動等について意見交換をしました

大阪国際センター & 京都市国際交流協会

1997. 11. 22～11. 23

大阪国際センターでは、所長の講演の後、日系二世研修員と研修の目的や心境、センターでの活動について意見交換をしました。

2日目の京都市国際交流協会では施設見学を中心に研修しました。



京都市国際交流会館図書・資料室でTCA-NEWSも紹介してありました

(財)豊田市国際交流協会

1999. 11. 20～11. 21

(財)豊田市国際交流協会は、専門性、自主性、外国人との共生活動への配慮に独自なものが見られました。また、ネットワークづくりの要の事務局長 ブイ・チ・トルン氏(ベトナム出身)は、日本留学体験から得られた異文化理解のカギが実現されているように思えました。



指導者の殆どが若い人達で占められていた日本語ボランティア講座

浦安市国際交流協会

2000. 11. 21～11. 23

Hand in Hand across the World
「いま、世界はお隣どうし」を合言葉に、1987年から市民を主体に9つの専門委員会を中心として、それぞれ趣向を凝らし、多岐にわたった活動が企画・運営されていました。



会議室での研修交流会

委員会活動あれこれ

文化交流委員会

OWARA DANCE in TOYAMA



富山まつりの「越中おわら踊り」に参加

華道



生花を挿すことに興味深く!!

茶道



「Tea Ceremony」はホストとゲストの心の交流です

日帰り交流会 森林浴と交流



立山山麓家族旅行村らいちょうバレースキー場周辺

もっと知ろう世界の街



少数民族カザフ族の音楽と文化を学ぶ

広報委員会

協会の機関紙「TCA-NEWS」は、シーズン号で年間4回の発行をしています。

表紙は、自然・花・風景・環境・祈り・フェスティバル・イベントなどのテーマを持って、年間シリーズで富山市の姉妹・友好都市を紹介してきました。

姉妹・友好都市

モジダス・クルーゼス市 ブラジル連邦共和国・サンパウロ州
豪皇島市 中華人民共和国・河北省
ダーラム市 アメリカ合衆国・ノースカロライナ州

The TCA-NEWS magazine is published four times a year, featuring articles and photos about international exchange activities in Toyama City. The magazine covers various topics such as traditional arts, nature, and local culture.

姉妹友好都市委員会

ダーラム市から来富



バーベキューで歓迎交流会 富山市ファミリーパーク

星日文化協会の「ロクさん」来富（シンガポール）



以前から交流のある吉友当協会副会長とロクさん

秦皇島市友好訪問団歓迎会



「草原情歌」や「海はふるさと」を合唱

国際教養委員会

多国言語文化交流クラス エジプト・アラビア語



いろいろな言葉と文化を学んでみよう講座をスタートしました

International Speech Academyクラス

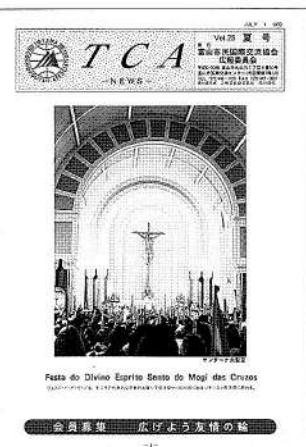


講話、座談、討論などがすべて英語で行なわれています

JET青年の富山近郊の名所探訪・親善の集い



JET青年たちと通訳ガイドのメンバーたちは、英語による説明、意見交換などで親善を深めています



ボランティア委員会

今日の一歩で明日が輝く



「小さなボランティアにチャレンジしましょう…」と

外国人お嫁さん交流会 「タオル人形」づくり



日本の男性と結婚した人、家族で富山に生活している人などに日本の生活習慣、文化、食生活などを紹介したり、また、いろいろな悩みや相談を通して交流しています

国際交流TCAカレッジ



「地域の国際化に向けて私たちができる外国人支援」と題してワークショップが行なわれました

総務企画委員会

とやま国際フェア



国際時代にふさわしいピッグな催しが開催されています



21世紀 あけましておめでとうございます



ダーラム市の環境



フェスティバル



一人ひとりが、世界中の人に親しいものさよう

We need to have friends from all over the world!

(3) 関係者の思い出

設立の頃



松岡

一

1993年3月末で定年を迎えて、再就職を希望していた私に設立されたばかりの富山市民国際交流協会事務局長を仰せつかり、国際交流協会とは何をやれば良いのか何も知らないまま4月1日から出勤した。

先ず驚いたことに、図書館1階の広いロビーの片隅に机が5個とロッカーが数個あるだけであり、現在のような間仕切りもなく床もタイルのままであった。そして女性の職員が二人、手持ち無沙汰の様子で寒い所にいたのが印象的であった。さて一体何から始めなければならないか、前例がないので本当に困り果てたのが実感であった。

先ず会員の募集が第一と考え、知人等を訪ね歩き国際交流の趣旨に賛同していただき入会してもらいながら会員数を増やしていった。

また現在のような部会を設け、それぞれの分野で活動をお願いし皆さんには大変な思いをさせたことについて今でも深く感謝しているところであります。

同年の7月には姉妹都市のブラジルのモジ・ダス・クルーゼス市へ古着を集めて送るという依頼が市から持ち込まれたがどのような方法で集めれば良いかを考え、先ず市役所職員に呼びかけたが思った程集まらず、最後に県労協にお願いに行き了承を得たが果してどの程度集まるか解らず少しずつは集まったものの目標には遠くおよばず困っていたところ、8月下旬から9月末までの間にこのことが口伝えで県下一円に広がり毎日トラックで持ち込まれ広いロビーにあふれるようになってしまった。集まった品物を一枚ずつ仕分けし、箱詰めにする仕事がまた大変であったが、市民の善意に感謝しながら作業をしたものである。ちなみに集まった古着は15万点余りであった。

又、協会の事業として環日本海シンポジウムを計画し日本海を取り巻く韓国、中国、ロシアの大使館の外交官にお出でを願い、計画を進め、私も何度か各國大使館を訪ね出席を了承していただき、何とか開催できる見通しとなり一安心したところ7日前になり韓国大使館から電話があり環日本海シンポジウムに出席できないとのことであり、その理由は日本海という呼称が韓国では東海と呼ぶので本国で問題となっておりその名称をはずさなければ出席しないとのことであった。しかし協会としてはすでにポスターを配布し、各メディアの後援もいただいているので、何とか了解してくださいと頼み東京の大使館へ行き話し合った結果、当日の看板を東アジアとすることで了解してもらいようやく開催することが出来た。又このことが朝日新聞の全国版で報道され反響を呼んだものである。なお、このことで中国大使館の張一等書記官（当時）が韓国との仲介に入り開催することが出来たものである。ちなみに中国では日本でいう東支那海を東海と呼んでいる。

これからは、国際事情を事前には握して進めなければならないと痛感いたしました。

設立 10 周年の節目を迎えて

小川光夫



このたび、富山市民国際交流協会が設立 10 周年の輝かしい節目の年を迎えたことについて、心からお祝い申し上げます。

これも、「市民レベルの草の根交流」をめざし、熱心に活動された会員の皆様によるものと感謝申し上げます。

私の事務局長時代に 5 周年記念の事業をお世話し、自遊館で大々的なイベント行いました。大変な苦労もありましたが、会員の皆様の並々ならぬお力添えで無事終えたことが想いだされます。

こんなことから、今回、ボランティアと事務局について記して見たいと思います。

当協会事業は、すべて会員の皆様方のボランティア活動に支えられています。

本来、ボランティアは自分の技能、時間を自主的に無報酬で提供する人々である。人のため、社会のために、自分のために、自分の責任と判断で行動することから、その存在感と喜びを感じるものである。誰かに強制されてするものではなく、序列社会とは別の生き方が出来る場であることが一つの魅力になっているとも言われています。

自発的な活動のはずが周囲の期待から義務化し、与えられた役割が負担となったり、会員のための協会が協会のための会員となっていないか。

事務局の企画立案に会員はただ役割をこなすだけでは、マンネリ化し、やる気も無くなろう。ボランティア活動の活性化には企画立案の初期段階からの参画が望ましい。

ボランティアに対する関心がまだ低い富山（日本）では、活動会員も少なく、一部に固定化し、活動にも限度がある。にもかかわらず事業やイベントの回数や実績が協会、委員会の評価との思いから背伸びをする。格好の良い事業の企画・立案まではいいのだが、実施段階では役員や事務局に責任を押し付け、協力や参加が少ない。お陰様で役員は参加者の募集に苦労しているのが現状であります。

もっともボランティア活動は個々の余暇があってのものであり、一概に責めることは出来ないが……ここは原点に帰って無理のない企画で、誰もが参加し易いものから始めることも一考したい。

一方、個々の担当事業には責任をもって努力されますが協会全体における強調体制が今少し薄いように思われます。組織で動く協会としては、全員の協力、参加があってのものであるが……これもボランティア間の意識の差や年齢、職業、社会経験の違いから生ずる会員と組織の難しさでないでしょうか。

いずれにいたしましても、会員が伸びのびと楽しく活動できるサポートセンターとなることを、10 周年の節目を迎えて心から期待しております。

目標：個性と創造性を育む街

【外国人と共につくる住みよい街】

国際交流の推進

I 国際理解の促進

- * 国際理解教育の推進
- * 外国語専門学校「公開講座」
- * 富山市民大学「国際理解講座」
- * 富山市民国際交流協会事業

II 国際交流・国際協力活動の推進

- * 姉妹友好都市をはじめ、諸外国の都市との多様な交流
- * 地域の身近な外国の方との交流の推進
- * 姉妹友好都市からの医療、商工業、農業、語学などの研修生の受入

III 国際化に対応する環境の整備

【ハード事業】

- * 富山外国語専門学校
- * 富山市国際交流センター
- * 外国人研修生用宿舎
- * 富山国際会議場

【ソフト事業】

- * 外国人留学生医療費助成事業
- * 生活情報ガイド作成事業（英・中・韓）
- * 市勢要覧発行事業（英・中・韓）
- * 観光パンフレット作成（英・韓）
- * 外国人高齢者・障害者福祉手当支給事業
- * 職員国際化対応研修等（行政の国際化）

(5) 外国人が語る富山の魅力と期待



應 廣 建（中国語講師・中華人民共和国）

今年3月10日は大学受験合格発表の日です。午後3時半ごろ、赤い郵便配達のワゴン車が家の玄関先で止まり、一通のレタックスが届きました。受験生の娘の待ちに待った希望校の合格発表通知書でした。通知書を手にした娘の頬は喜びの涙でくしゃくしゃでした。幸せの気分に浸っている娘を見ながら、富山での14年間の歳月に思いを走らせました。

わたしは中国上海に生まれ、1988年来日。東京で1年間過ごし、翌年3月末頃に富山大学留学のために富山にまいりました。来県前に、「富山はどんなところですか。」と東京の友人達に聞いたところ、「寒いだろう、雪がよく降るかな。」とちょっと寂しい答えが返ってきました。希望と不安を抱え、知り合いが一人もいないまま、わたしは富山に降り立ちました。

着いた当日は、小陽春で、和やかな日差しがわたしを暖かく迎えてくれました。市街地に入ると、整然としている道路と青々としげる並木、特に東一面に展開している立山連峰が絵の如く目に映りました。幼い頃から山に憧れるわたしはその美しさに感動し、不安が幾分か和らぎました。ちなみに今まで10回ぐらい立山に登りました。富山に暮らしている間に、にぎやかで騒がしい大都会と違って、富山は自然に恵まれ、静かで、水もきれいで、米も魚もおいしい、とても住みやすいところなどと実感しました。日本に来るまでは生ものを口にしたことのないわたしも刺身は大好物になりました。

富山の生活環境はすばらしく、富山の人々はやさしくて国際感覚をもっています。富山に来た初日のことですが、大学近くの津田不動産屋へ下宿探しに行きました。留学生のわたしのことを聞いた津田さんは即座に熱心にわたしに相応しい物件を紹介してくれました。さらにわたしの荷物がまだ富山に届いていないことが分かると、すぐさま、布団やら、食器やらテレビなどを用意してくれ、夕ご飯も近くの店でご馳走してくださいました。本当に感動の連続の初日でした。おかげでこの晩から借りた下宿でぐっすりと眠ることができました。

6年後、娘を富山に連れてきました。早く富山の生活に慣れ、日本人の生徒と一緒に授業を受けることができるようという思いが強かったので、富山に着いた翌日、さっそく娘を五福小学校に行かせました。「あいうえお」すらわからない娘が授業に付いていけるかと心配の毎日でしたが、「今日、校長先生が校長室で日本語を自ら教えてくださいましたよ」とある日、娘が興奮気味に言ってくれた言葉に驚きました。多忙な公務に迫られる中で校長先生が暇を見て娘の世話をしてくれたことに感激しました。その後、娘は先生がたの骨身を惜しまぬ育成のもと、すくすくと成長していました。娘の成長ぶりを実感する度自分は心の中でいつも「校長先生、諸先生ありがとうございます」とつぶやくのでした。

歳月の立つの矢の如き、富山に來てもう14年になりました。顧みればこの14年間多くの友人が私たちを応援し、温かく見守ってくれました。皆さんのおかげでわたしたちは毎日楽しく過ごしています。私たちはすっかり富山の社会に慣れ、富山を愛し、富山県人として誇りを感じています。「富山に来て良かった。」「富山はわたしの第二の故郷です。」と。今、娘はいよいよ親元から離れて自分の未来に向かって羽ばたこうとしています。そんな折に、この紙面を借りて今までサポートしてくれた方々に改めて厚くお礼を申し上げます。

また、富山の発展と繁栄および中日友好の発展のためにこれからも力を尽くすことを心に銘じて、日々過ごしていきたいと思います。



プチャラパリ・スリニワスル・レッディ（会社員・インド）

この機会をお借りして、富山市民国際交流協会の設立10周年のお祝いを述べさせて頂きますと共に、多様化する国際社会に於いて協会の果たす役割がますます増大していく中で、協会のさらなる発展を祈念したいと思います。

さてここで協会と私との関わりについて一言触れておきたいと思います。私が富山にまいりましたのは長岡技術科学大学を卒業した後の2001年5月下旬のことです。その年の6月下旬に町のあちこちをみて回っている間に、交流協会のことを知るようになりました。以来国際交流フェスティバルや富山まつり等の大きな行事や、その他交流協会が主催する様々なイベントを通じて、日本の伝統的文化について学ぶ機会を得ることができました。協会内外の多くの方たちとお友達にもなれました。また、私の故国インドについて日本人々にお話する機会も与えられました。

当地へくる前、富山は日本で一番住み良い県だと聞いておりましたが、実際住んでみて本当だと実感しました。いろんな面で富山はユニークですが、特に日本アルプスと日本海にかこまれた立地の良さは抜群です。他の良い点は、富山は大都市ではないけれど日常生活に必要なすべての施設や役所がそろっているところです。食べ物もとても美味しいです。

私のように日本語を話す外国人はたくさんいますが、必要な情報を得ようと雑誌や会報を読もうとしても漢字が分からぬという人も多いです。そこで“タウン情報とやま”のような情報誌が英語で出版されれば外国人にとってももっと住み良くなるのではないかと思うのです。もしかして、外国人のほうでも富山の人達が彼らになにを望むのか知りたいと思っているかも知れません。



フレデリック・ワンジオ・ビッディ（コンゴ民主共和国）

当地へ来て1か月程たった頃、協会員で日本語の教授をしていらっしゃる方から協会のことを教えていただき、協会からボランティアの日本語講座の先生を紹介してもらいました。今では思ったことはだいたい日本語で言えますが、もっと上手になりたいです。

富山は静かで落ち着いた町です。日に日に発展して美しくなっていきます。人々は親切で、国際交流協会の皆さんはいろいろな方法で、富山在住の外国人に対し思いやりの気持ちを示して下さいます。例えば、様々な協会主催のイベントを通じて日本の伝統文化を私たちに、そして、日本の方たちには私たちの文化を知らせ、両者の間の友好を築きあげようとしていらっしゃいますし、10月の国際交流フェスティバルのバザーでは私たちにとても多くの必要品を安く提供して下さいます。交流協会の人達は私たちに困ったことがあればいち早く気付いてくれます。これは私自身の経験から言える事で、大変有り難く思っております。

国際交流協会について書かれたものを読んだことがないので、その正式な目的は知らないのですが会員の方がやっておられることから推測はできます。その目的を簡潔に記したパンフレットがあれば富山に初めて来る外国人に、県や富山大学の留学生センターを通じて配布することによって、もっと良く協会のことが知られ、彼等の当地での生活もよくなると思うのです。

最後に協会員とスタッフの方々に対し、日頃の我々外国人への多大なご助力に感謝の意を述べたいと思います。



ブライアン・アーウィン（ALT・アメリカ合衆国）

富山へ来てまだ7か月しか経っていませんが、富山の一番の魅力は周囲の“山”だと思います。見ていて決して飽きるということはないのです。ただ、残念なことには悪天候ではっきりと見えない日も多いのです。しかし、なかなか見えないからこそ、見えたときの喜びもひとしおなのでしょう。

富山は大都市ではありません。でも、決して小さな町でもありません。自転車でどこへでも行けるというのが何といっても魅力です。ここには親切な人が一杯います。そして大きなお店と家族でやっているような小さなお店が丁度良く混じって存在しています。外国人にとって物凄く住みやすいというわけでもありませんが、町の人達に少しでもその方向へと変わってもらえたなら大変嬉しく思います。

富山市民国際交流協会のおかげでとても快適に生活しています。富山についての情報が集まっていて、私の当地での生活には絶対不可欠なものになっています。語学レッスンは私の日本語習得の大きな助けとなっています。また、協会がなかったら自分からはとても参加しようとは思わなかっただろう文化的体験もさせてもらいました。さらに協会があったからこそ知り合えた人達とお友達になれました。いろんな意味を込めて、ありがとうございました。



パベル・ムルクス（富山ガラス造形研究所客員助教授・チェコ共和国）

2年半前、富山ガラス工房へ招聘されて富山に来て以来、ここは私と家族にとって第二の故郷となりました。それは大きな変化でした。不安とちょっとした怖さも伴っての一歩でした。といいますのは、私たちにはまだ幼い1歳と3歳の息子がいたからであり、また言葉も分からぬし、知り合いもいない国に初めて旅立ったわけですから。

しかし、ここではとても暖かい歓迎を受け、まだ慣れない最初の頃からあらゆる助力を賜ったおかげで、直ぐに不安もなくなり、快適な生活を始める事が出来ました。今に至るまでこのことは変わっておりません。富山は本当に親しみやすい町です。人々は、仕事場でも近所でも役所でもとても親切で、言葉が分からなくても笑顔で、何とか理解しようと努めて下さいます。これは一番大事なことだと思います。また山や海の美しさ、わくわくするような日本文化、そして食べ物の美味しさも格別です。

砂浜が少し汚い所もありますがそれも気になりません。私の国は四方を山で囲まれているので海そのものに不思議な魅力が感じられるのです。けばけばしいパチンコのネオンサインの表す動画さえも、その疑わしい意味合いにもかかわらず楽しむ事ができます。県内をドライブするのも楽しいです。もっとも、私のヨーロッパでの13年にもよぶ運転歴にもかかわらず、日本の免許取得は大変厳しかったですが。まあ、時々物事を少し堅苦しく考えすぎるのではないかと思う事もあります。でもそれも、郷に入りては郷に従えです。

市当局が、ガラス工房とガラス造形研究所を通じて、ガラス文化とその教育にいかに熱心に援助しているかについては、驚くべきものがあります。この窮屈な競争社会にあってそれはとてもまれなことですし、市民にとっては重要なこともあります。研究所は外国人芸術家を招聘しているので、短期間に富山がアメリカやヨーロッパで有名になる事でしょう。

姜 慶 淑（ハングル講座講師・韓国）



富山市民国際交流協会の設立10周年を迎えたことに対し、心からの感謝とともに誠におめでとうございます。

私にとってこの富山市民国際交流協会は特別な思いがあります。たとえば、日本の習慣や文化さらに富山の…に慣れて行くためには誰かの導きが必要です。それは、外国人にとって一番重要なことだと思います。そういったことをこの富山市民国際交流協会の皆さんのが手足になって下さっています。

その中にいろんな委員会があって、様々な行事もあり、このすべての行事を一般のボランティアの皆さんのが支えていてるのはとても素晴らしいことだと思います。この10年間、心からの真の交流をしてきた成果として、多くの外国人が感謝をしていることだと思います。

今後、この富山市民国際交流協会の更なるご発展を心からご祈念を申し上げます。



(6) 姉妹友好都市からのメッセージ



秦皇岛市人民政府市長 菅 瑞 亭

貴協会がまもなくご設立10周年を迎えるに際し、私は秦皇岛市人民政府を代表して、久保田会長に、そして協会の会員の各位に心から祝賀の意を申し上げます。

富山市民国際交流協会は設立10周年以来、積極的に国際交流と国際協力に取り組み、特に富山市と秦皇岛市の民間交流の面では大きな貢献をされました。

両市の友好のために多大な努力をしてきた富山市民国際交流協会の皆様に感謝と賞賛の意を込めて、改めてお礼を申し上げます。

ここ数年、両市の友好関係をいっそう深めると同時に両市の実質的な交流と協力の可能性の大きさを改めて認識しました。

特に経済、科学技術の面での交流と協力においての潜在力が大きいことは明らかです。

これからも、久保田会長および会員の皆様が両市の共同発展を引き続き支持し、両市民の幸せのために、両国の世世代代の友好のために一緒に努力していくことを私は心から希望しております。



モジ・ダス・クルーゼス市長 安部 順二

1979年に調印されたモジ市、富山市の姉妹都市提携は日系人だけではなく、またモジ市民の誇りでもあります。

戦争や各国間の摩擦等で暗いニュースが目立つ昨今、この姉妹提携は二つの国を繋ぐ架け橋として友好関係が保たれています。

それだけではなく、この姉妹都市提携は先祖から受け継がれている文化面や社会面での伝統や風習を保持する上でも、大いに貴重なものであります。

当市は、これまでにも富山市から低所得者層に対して色々なご支援、ご協力をいただいており、富山市民国際交流協会のご活動の重大性を再認識する次第です。

富山市民国際交流協会は、日本と他国との友好関係をより深めるべくご尽力のことと存じます。

本年、国際交流協会設立10周年を迎えるにあたり、ここに会員の皆様のご努力とご献身に敬意を表するとともに会の益々のご発展をご祈念いたします。



ダーラム市長 ウィリアム V. “ビル” ベル

富山市民国際交流協会設立10周年記念を祝して寄稿させていただくことはとても光栄であり、感謝申し上げます。

10年以上にわたり貴協会におかれましてはダーラム市と富山市との間における多数の姉妹都市交流プログラムに貴重なご支援をいただきました。

富山から戻った各代表団は、貴協会をはじめ富山市民の心からのおもてなしとあたたかい友情という宝物を持って帰りました。これまでの相互の訪問が成功裡であったことの証だと思います。

また富山からの代表団のために財源的、組織的なご支援をいただいております。すなわちこれらの訪問が続いたことにより私たち相互の市民間の永遠の友情の灯火を絶やさずに入ることができました。

貴協会の歴史にこの意義深い一里塚を記すこととなる記念誌に寄稿する機会を与えてくださり誠にありがとうございます。

よりよい国際理解という私たちの共通の目標に向かって今後ともご支援いただきますようご祈念申し上げます。

(7) 事務局からのメッセージ



日南田 美幸

富山市には現在約3,700人の外国の方々が住んでおられます。本当に「縁あって」ですね。そんな縁を大切にしたいと思っています。日本人でも同じですね。そんなみなさんが周りにたくさんのお友達や知人がいたらどんなに心強くて楽しいことでしょうか。協会がいつもたくさんの人々にとっての出会いと交流の場を提供できたらと思っています。10周年にあたりご協力いただきましたみなさまに感謝申し上げると共に今後ともご協力の程よろしくお願ひいたします。



酒井 千絵子

私が外国人相談員として勤務して早くも5年が過ぎましたので、ちょうど協会の歴史の半分を見てきたことになりますが、10周年に立ちあえたことを嬉しく思います。その間にも様々な外国からの方々との出会いがあり、相談にのりお手伝いするだけでなく、文化や国籍、宗教の違いを越えて学ばせて頂くことが多くありました。お忙しい時間をぬってご協力いただいた会員の方々、また今まで支えていただいた皆様には深く感謝いたします。今後とも努力してまいりますので、お気軽にお立ち寄りいただき、ご指導いただければと思います。



湯 麗敏

いつも皆様から親切なご指導と応援をいただきながら、外国人相談員として勤めさせていただいております。広くもない協会の事務局の部屋には、沢山の外国人が訪れて、にぎやかで多忙な毎日です。

言葉、文化、生活習慣などが違う外国人が、なごやかな雰囲気で母国語で話すことによって、悩みを打ち明け、ほっとした表情、「ありがとう」の一言と笑顔は、私にとっては何よりも嬉しいです。と同時に相談員としての仕事の重要さと責任も感じております。

今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。謝謝！



見角 徳治

私は勤めて2年9ヶ月になります。役割は夜間管理員です。ビル最終の確認、火気、戸締り、来客の応対等。所感として、14年度初めて個人会員数が前年比減少しました。会員は外国人支援の交流肌の方と学習肌の方で構成されていると思います。とりわけ学習の方は会員としての認識が薄いのではないかと思います。学習から交流への期待は大きいです。終わりに私を支えていただいた方々に心から感謝すると共に、永久に協会の繁栄を祈念します。

2 座談会「10年の足跡と将来展望」

「10年の足跡と将来展望」

◆司会

吉友嘉久子 富山市民国際交流協会副会長

◆出席者

久保田照雄 富山市民国際交流協会会长

小川弘 富山市民国際交流協会副会長

竹丸忠 富山市民国際交流協会事務局長

岡田昌代 富山市民国際交流協会広報委員会委員長

内山恵美子 富山市民国際交流協会姉妹友好都市委員会副委員長

協会設立時の思い

吉友■ 今日は富山市民国際交流協会設立10年の足跡と将来展望について、ご参加の方々にお話を伺ってまいりたいと思います。よろしくお願ひいたします。

これまでの10年間の歩みを振り返り、これから更に充実した国際交流のあり方を、ひとつの節目に立って、ご一緒に考えたいと存じます。

今年は国際交流という言葉が重く感じられます。それは、ささやかにしか私は関われなかったのですが、10年間多くの方が地道に地道に歩いて今日までたどり着いたという感があることです。

もう一つは、平和を願って交流したいと思っているメンバーの一員としてみると、イラク戦争などがあって胸が痛いですね。なんであるか方向にいってしまったのかと、強く思いますので、国際交流という文字がとりわけ何か迫ってくる気がするんですね。

そこで、このような時でありますが、何か皆さんを考えいらっしゃることとか、印象に残っていることを、これからお話ししていただきたいと思っております。

ところで私たちが、この会をつくる以前から、もうすでにIT革命が始まり、交通手段もどんどん発達してきて、人の交流とか情報の交流が凄くスピード化してきました。その中で、これから更にもっと変わっていく節目の10年だと思いますが、会長さんいかがでしょうか。

先程ご挨拶がありました、平成5年1月13日に設立総会、あの時を思い出しましたら、市民学習センターのお部屋にぎっしりの方がお集まり下さいました。あの時、あの日を迎えるまでの経緯とか、この国際交流協会の趣旨とかを、ここで改めて伺いたいと思います。

久保田■ 建て前については、設立趣旨書に書いてありますが、必要と実感的に言いますと姉妹都市の受け入れ態勢、市民による受け入れ態勢、これが一番現実的な問題でした。というのは、あのころアメリカ ダーラム、中国 秦皇島市、この市民を受け入れる態勢、姿が全然違っています。ダーラムは本当にボランティア・有志の人が協力した形で受け入れ、一方、中国はお国柄整えられた形での出迎えと対照的な違いがある中で、富山市 市民として友好都市の皆さんが出でになった時、どういう形で迎えたら良いのかということが、まず一つ基本的にはあったのではないか感じを私はするんですね、ですから受け入れの必要性が協会を設立された一つの動機であったと感じています。

吉友■ 当初、スタートした時に、まだ私どもはどんな事業が具体的に実っていくのか、あんまり想像できませんでしたね。



久保田■ 具体的に一番解るのは、友好都市から来た皆さんを富山市が公の行事として迎えるのと並行して市民サイドでどのようにして迎えるかということが具体的な差当たっての急務だったと思っていました。

吉 友■ それがスタートから成功いたしましたね。

久保田■ 成功するというか、試行錯誤といいますか、新しいスタイルを作り上げて行く訳です。

それは一つ一つの事例を積み重ねてその中ら考えて進める。ですから考えて実行し、実行した中から考えて次から次へと一つの型を徐々に作り上げて来たのではないでしょうか。

吉 友■ 小川副会長さんいかがでしょうか。

小 川■ 会長が申されたように、結局ガヴァメントとガヴァメントの結び付きというものがかなり色濃くあって、特に中国の場合はガヴァメントがかなり前面に出てくる。その後にあるのはビジネスとビジネス、商売と商売。この商売と商売でも中国のガヴァメントとは商売をかなりサポートしてくる。

商売ができるような姉妹都市、姉妹都市を結ぶとその中で商売ができるかと考える。

アメリカの場合は、初めからピープルとピープル、人と人となり、人対人の結び付きを受け入れるのも人なり、人と人とを上手く結び付けば良い。ビジネスはビジネス。

これからもまだ姉妹都市が増えていくと思いますが、姉妹都市の基本がどこにあるのかということを良く理解していないとならない。



吉 友■ 竹丸局長さんは設立当時の印象に残っていることがありますか。

竹 丸■ 最近、国際化ということ盛んにいわれていますが、欧米人にとっては地続きの国ですから、そこには当然、昔から人の交流、いわゆるマンツーマンとかピープルとピープルという関係があったと思います。

日本は島国ですから、ようやく国際化の波がそれこそ来たといえるのではないか。インターナショナルを漢字で書くと、国間同志という意味になるでしょうが、国際化という国の際といい方をすると、どうしても国境というイメージが出てくるんですね。すると今の、侵略だ何だという中で、人間がつくった一つの線を越えた越えなかつたという話になるんですが、私は国際化というのは、いい方を変えると心国際化だろうというイメージを持っているのです。国との際をどうしていくかと、それが交流になるんだろうという思いでおります。



これからは本格的にもっと外国人同士が文化交流などを経て、その国の人たちの考え方を理解しながら、それを前提にして、その次の一步がビジネス、文化交流となるのでないか、それが国際交流ではないかと理解しています。

会員拡大と情報・PRのあり方

吉 友■ 設立当時は、個人会員が326人で、途中から家族会員も増え、10年で個人会員が200人以上が会員として増加している。団体・企業も増加している。まず数ではないといいながらも、一つの組織が活性化していく時には、やはり心同じくする人が多くいた方が運営も良くなると思うんですが。

いろんな活動して、いろんなPR・情報を流しているんですけど、どうですかね、もっと浸透させるには。

小 川■ 会員を増やすことは、なかなか難しい。それで私は協会が発行している広報を充実することで、いろんな団体・グループとの連絡する媒体となり会員増になるのではないか。

協会としては、会員になった人を引っ張って行くよう考えなければならないし、会員になっているから何かメリットが有ると、そのメリット何なのかを皆で考えなければならないと思っているのですが。

協会の事業に参加して良かったと、例えば、新春の集い、いろんな外人との集いの場、海外研修に行って良かったとか、良かったと思うものが一体、いちばん何なんだろうかと探し求めながら、会をもり立てて行った方が良い。そのためには広報活動が非常に重要であると思う。

広報委員長の岡田さんどうですか。

吉 友■ 本当に熱心に広報活動されていますね。たくさんの反響があるでしょう。

岡 田■ そうですね。おかげさまで協会設立当初から広報活動に関わらせていただき、手探りでいろいろ勉強しながら作り続けて参りました。みなさんの協力と応援のおかげです。



10年前の私は、国際交流には無縁な人間でした。平成4年に、富山市の女性海外派遣事業に参加しまして、初めて海外・国際という言葉に出会ったような気がしました。ちょうどその時期にこの協会が設立されましたので、さっそく会員になりました。

当時の思い出としましては、「国際交流活動の拠点」と新聞などにも大きく報じられました国際交流センターは産業奨励館の跡のただガランとした箱のような場所だったのです。私たちは、少しでも国際交流協会らしくしたいと、階段に「富山市民国際交流協会」と張り紙を貼ったり、万国旗で飾ったり、ステキなキャッチフレーズを創ろうと一生懸命に考えたりと、毎日、夜遅くまでガンバリました。また、最初の間は何か交流活動を計画しようにも、肝心の外国人の人達との関わりがないので、どうしたらいいのだろうかと悩んだり苦労がたくさんありました。

そこで、私は、外国の人たちと関わりを持つために、富山大学で留学生のお世話をするボランティアに参加しました。交流会やバザーなどを開催しながら、この協会のPRをしたのです。そのうちに留学生も自然と協会に集うようになり、国際交流協会らしくなってきました。私は、今も留学生のお世話を続けております。

その頃から、少しずつ国際交流と言う言葉も人目に付いて来るようになり、警察署など行政機関や各企業においても、その行事の一環として外国人との交流イベントが多くなり、協会の方へ外国人を紹介して欲しいとの申し出が殺到してきました。でも、まだ、現在のような富山在住の外国人の人たちは少数でしたし、また、協会としてもしっかり把握していない時でしたからたいへん苦労したことが思い出されます。

それと、あの頃は、まだ、周りの人たちの考え方が国際交流のボランティアをしていると言うと、何か勘違いされ、時間やお金に余裕があり、外国語で会話も出来る特別な人達の行うボランティアとして捕えられる事が多く、つらい思いをした事もありました。でも、最近では、もう、当センターには、たくさんの外国人の人たちも出入りするようになり、国際交流、異文化理解など誰もが日常的に意識せずに話したり、身近なところで外国人の人たちとの「ふれあい」が馴染んできたような気がします。

これからも、地域の国際化・多文化共生社会に向けて、人間関係と心の交流を大切にしながら活動していくたいと思います。

吉 友■ 思い出しました。階段とかに一生懸命に張り紙をしている姿を見て、一步ずつこれ必要だからと手探りで積み重ねてきた感じがありますし、一つひとつ必要に迫られた事業等組んできて、今10年が経って見ますと沢山の事業をこなしてきているのにびっくりします。改めて見ますと、この事業の中で一番といったら海外研修ですかね。

小 川■ いや、そうでもないですね。私は協会・広報委員会が広報で書いている内容を見ると、外国人をケアしていると思っています。例えば、外国人のお嫁さん交流、料理交流会、国際交流フェスティバルなど、一つひとつを見ていくと広報の中で常にポイントを当て掲載されてますが、これは一部にすぎなく、かなりの事業を行っていると思いますし、それに当協会ほど事業報告、事業案内を年4回発行している協会がないと岡田さん自負して良いのではないですか。

岡 田■ ありがとうございます。そうですね、機関誌等で国際交流センターや協会の職員が作っている所が多いようです。ボランティアで作っている場合では、自分たちの本来の仕事の合間の少ない時間で作っていますから大変といえが大変です。

いつもみなさんの協力にささえられ感謝しながら、ちょっと大変ですが作させていただいております。

小川 市の仕事としてやっている所が多いですね。市の事業とし、市の予算で、市の職員がやっている。

竹丸 小川副会長が申された行政がやっているのか民間がやっているかについて申し上げますと。北陸三県の国際交流センター・協会で構成している会が年1回の交流の場があります。そこ出席いたしますと、殆ど協会の会員でありながら行政の担当課或いは係の職員である人が多い。富山市民国際交流協会のように民間の形をとっているのは、北陸三県の中でも当協会のみだと思います。また、富山市民国際交流協会を創る時に市の協会にするのか、民の協会にするのかという時に民の協会の方向性を選択したことが結果として良かった。

今後、この特性をもっと発展させていく必要があると思います。

吉友 富山市に住んでいる外国人はいろんな国からおいでになっています。その方々の方に向いて事業を計画している部分がたくさんあります。語学研修とかその他広く。その相手がそこにいて、また海外にもたくさんの、こちらから出かけて行けば際限なくお相手がいる訳なんですが、しかし、それを動かしていく内側の会員同士がもう少し意識をレベルアップしていく必要があるのではないかでしょうか。

久保田 千差万別で良いのかなと最近そのような感じを持っています。

国際交流協会という舞台の中で、色々の踊りをやっておると、一面で非常に身近なことを行っているし、またある一面では巧者なことを行っている。要するに差が非常にあると思いますが、それはそれで良いのではないのかと感じがいたします。ですから国際交流協会とは大きな舞台であって、その上で皆さんがどのように付合いをし、どのような問題を見出だし、どのようにお互いの交流、理解を深めていくかをそれぞれのグループで考え自主的に進められて良いのではないでしょうか。しかし、これらをバックアップする体制が協会として十分にできていないのが問題だと思います。ただ、色々なサークルが入り交り、細胞分裂のようにぶつかりあって行くことによって内容が深まっていくのでないか。またそうした動きの中から新しいものが生まれてくるのではないか。

国際交流協会とはと大義名分を大上段で振りかぶって枠にはめるというのはいかがなという感じを最近持っていますから、皆さんそれぞれ必然性に応じて、自由に行っていただければ良いと思っています。というのが、これまでの積み上げ、経験の教訓でないでしょうか。最初からこのような展開ができなかったと思います。やっぱり一人ひとりが今まで長い間、いろいろな問題を真剣に取り組み、積み上げてきたと思っています。ですから、一部の人の協会であっても困る、もっともっと多くの方に接する協会であって欲しいという気持ちもあるんですよ。しかし、そのために会員を増やすといっても、先程述べられたように、会員も参加意識をどのようにして持つかという問題もあります。ですから、これからも悩ましい問題でしょう。

吉友 そうですね、総会なども限られた方しか出席されない、ですから講演を聴くとか、各委員会で事業があると、一回思い切って誰かに誘われて参加すると意識が変わるのでよね、やっぱり来て良かった、思い違いしていたとか、少しづつ少しづつ引込んでいかれるので、できたら会員が総会だから皆来てよと一声かけることが重要ですね。

久保田 外国の方に世話をしたから世話をしたいという気持ちが、誰かに誘われて会員になってくる。そしてお互いに声を掛け合って膨らましていくというのが自然でないでしょうか。そういうスタイルで結び付いていく。

竹丸 自分が会員だという意識付け、総会なら総会に限られた人がお出でなる。600人近くの人、皆さんそれぞれいろんな分野でお仕事されている人、また趣味等で得意分野があると思います。これらを協会の活動の



中で、自分の趣味の分野を発揮していただくことが大事であります。例えば、一年に1回でもイベントに参加することによって自分も会員なのだという意識付けになると思います。

協会としては、会員の趣味、特異分野を把握して声を掛けをしていかないと、会員だけで終わっていってしまうのではないですか。

久保田 それでは会員の皆さんに、どのような方法で総会や事業を案内しているのですか。

竹 丸 総会案内、年4回の広報、あるいはパンフレットで案内いたしています。

15年度からホームページで日本語・英語・中国語・韓国語で情報案内。

小 川 富山に在住する外国の方々が、自分の国について話する会に参加すると自分が協会に入っている意義があると思います。協会の人も歓びし、外国の人が自分の国を一人でも多くの方に知っていただきたく、もの凄く熱意が感じられる。会員を増やす非常に良い企画だと思います。

岡 田 国際交流センターばかりを主会場にしないで、小・中学校、市立公民館などを会場とした事業を企画・実施し、PRして行けたらいいですね。特に子どもたちにも、もっと外国のことを知ってもらい外国に触れさせることができればと考えています。

竹 丸 協会が12月に駅前のCicビルに移転する際にイベントとして、協会に入りしている外国人(11か国)の人たちに、自国を企画展示として紹介していただくことを企画しております。

県内の中・高等学校に国際科あるいは国際理解のクラブ活動とか沢山あると思う訳です。このような所へ指導者の先生方を通じて協会、協会活動をPRして行けばもう10年経てば、協会の会員に加入してもらえるのでなか。その意味では人材育成と言い方は極端ですが、広い意味で国際交流活動に参加してもらえるのはないでしょうか。今後は、中・高等学校に働きかけをしていくことが大切だと思います。

吉 友 このようにお話をしていますと、いろんなアイデアが出てきますし、これから新しいものが次々と出てくるかもしれないですね。これから先、次の10年を考えたりしますと、またどのようにしていくのかなと思うんですが、

小 川 会員で男性は高年齢者が多い、高年齢者中心で動きつつあるから、もっと何か若い人たちが加入してきてほしい。

委員会の持ち方も、もう少し変えていくと、これからやり方変わってくと思います。

これからの国際交流のあり方

吉 友 これからの国際交流のあり方、これからどのようにあったらいいのでしょうか。

久保田 今まで国際交流協会が積み上げてきたものを、どうやって発展させていくかとなるんでしょうね。この中で若者の感覚、アイデアを取り入れて行くことが絶対必要だと思いますし、若い人たちが活躍していくだかないと、本当に時代に即応下活動というものに遅れ、ギャップがでてくるのではないかという感じがします。

内 山 若い人と一緒に行動していると、若い人のエネルギーや頭の回転が身に着きまですね。

私は、家族と協力しながらホーム・ステイやホーム・ビジットの受け入れ家庭として、一緒にたのしく過ごし、その後も外国から便りをもらったりして長く交流を続けています。

協会では、大きなイベントも大切だと思いますが一人ひとりの小さな関わりが心の結びつきを生みだすのを実感しています。これが草の根交流というのでしょうか。

これからも、このような地道な活動を続けたいと思っています。



久保田■ その世代の流れというか時代の持つ考え方があるんですよ、それはやもえないです。我々の育った世代と今の若い人の育った世代とは違うと思うんですよ、それぞれの世代の空気を吸い、それぞれの付合い方をしてきて育ってきていますから、解っているようで解らないですから新しい世代を取り入れねば組織として活力がでてこないと思います。今の若い人の世代は我々の世代が全然理解できないでしょうね。

小川■ これからどうやっていくのかというと、委員会制度の委員の人々の若返りをそれぞれの委員会で考えていただければ少しは変わってくる。また、もう一押しやれば会員、行事に参加する人々が沢山おいでになるし、いろんな得意分野の人が登録されています。これからは協会として、いろんな面での人材活用を重視することではないでしょうか。

例えば、ホームステイを受けた家庭の周り多くの人々が会員のように集う。

竹丸■ 私も、これからはいろんな意味で人材活用を品いと協会全体が活性化しないと思います。

特に帰国子女の方は貴重な存在で、外国の文化、日本の文化を知っている、言葉も使える人たちを協会にきていただき、在住していた国々の人々の交流する分野をあってもいいと思うんですね。

吉友■ 皆さんに多くの事をお話ししていただきました中で、こういうところが問題かなということが少し浮かび上がってきました。これから、また、一步一步なにか新しいものを模索していく事ですね。必ずこういう節目を迎えた時に見直すという事が凄く大事な事ですね。私たちの協会がより良く、更に充実していくためには、やはり市民レベルということを絶対忘れていけないと思います。大変な部分もいっぱいありますが、せめて情熱のある方々が舵を取って、もう少しいろんな方の気持も意識レベルも上げて活性化していく方向にいけば良いなと言う感じを今日は持ちました。

今後とも、皆様方のお力添えをよろしくお願ひ申し上げます。

今日は本当に長時間ありがとうございました。

3 10周年記念事業

設立10周年記念講演会

平成5年1月13日に設立された当協会が10周年をむかえるにあたり、平成14年度総会にあわせて、外務省との共催で富山市民国際交流協会設立10周年記念講演会「外交の窓in富山」が行われました。

「外交の窓in富山」

共催 富山市民国際交流協会・外務省

日 時 平成14年5月18日（土） 午後2時50分～4時40分

会 場 富山国際会議場 3階メインホール（富山市大手町1番2号）

第一部 基調講演 午後2時50分～3時30分

「21世紀の地球環境と国際協力」

講師 小池寛治氏 政策研究大学院大学教授（元地球環境問題担当大使）

私たちの将来の生活を脅かすといわれている地球環境問題は、先進国の急速な経済成長と世界人口の大半を占める途上国の双方から発した、20世紀最大の負の遺産です。しかも、この問題は国境を越え、発現者が特定できないところに困難さがあります。そこで、問題解決の一つとして、国際的な条約協定によるルール作りが有効ですが、各国の利害が絡み、さらに国内でも調整が必要なことから、交渉には多くの時間を要します。例えば、リオ会議から京都会議を経て、本年、ヨハネスブルクで総まとめをすることになっておりますが、各国の事情でCO₂の排出量の削減指標値をめぐり発効に向けて難航しています。

しかし、持続可能な社会を形成するには、化石燃料によるエネルギーの制限、産業界、民生部門を含めたCO₂排出量の削減、さらに循環型社会の創造を日本から発信することが重要です。

21世紀の人類最大の課題－地球環境－について地球全体で協力し、一人ひとりが意識して知恵をしぼって取り組んでいくことが大切です。

第二部 パネルディスカッション 午後3時40分～4時40分

「富山より地球環境を考える」

コーディネーター 岡本 博美氏 外務省国内広報課企画官

地球環境というグローバルな問題を国際的に解決するためには、外交が重要な役割を果たします。今回のこの企画は、外交とは何か、また活動内容を一般に理解してもらうための広報活動の一環です。

パネリスト

藤木 素士氏 熊本県環境センター館長

筑波大学名誉教授

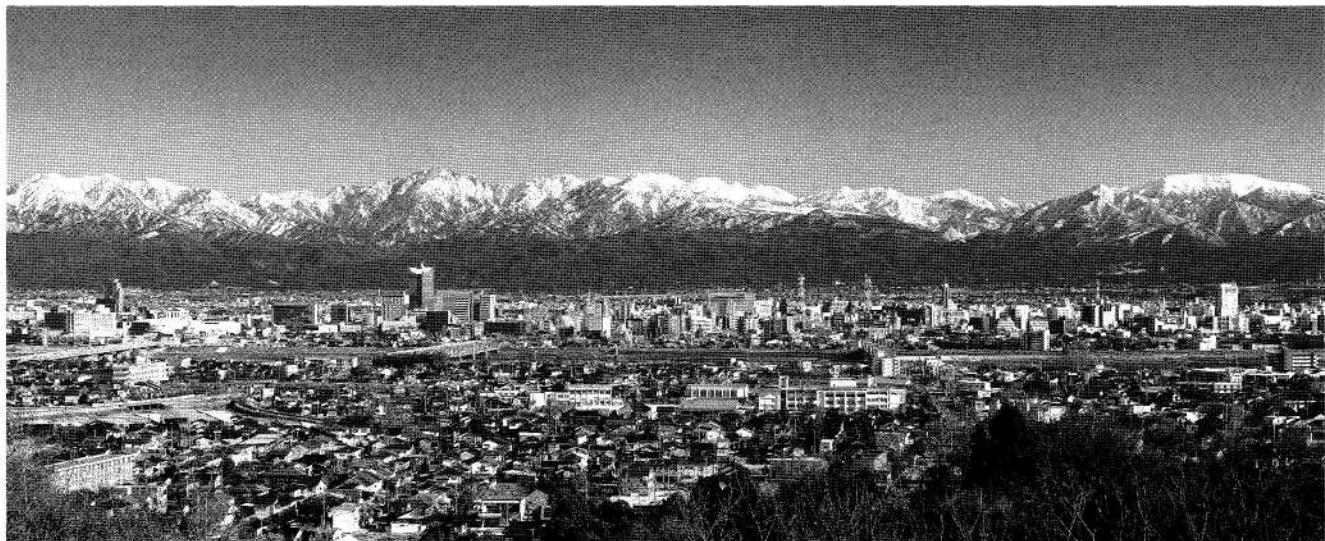
地球温暖化による環境変化は、生態系をはじめとして、私たちの身近な生活にさまざまな影響を与えております。今後、人類が発展するためには官・民・N G Oが一体となって環境問題に取り組むと同時に、環境に負荷をかけない科学技術の発展も重要で鍵となります。

パネリスト

那須 民江氏 名古屋大学大学院医学研究科

環境労働衛生学教授

医学的立場から、環境問題と健康について意見を述べました。20世紀の科学技術の発展は、多くの有害科学物質の排出によって人体に影響を及ぼしました。今後は、有害物を排出しないことが大切であり、地球的な課題を解決するには、まず身近な生活レベルでの行動が重要となります。



富山市民国際交流協会設立10周年記念講演会

外交の窓 in 富山

日 時 ■ 平成14年5月18日(土) 午後2時50分～4時40分

会 場 ■ 富山国際会議場 富山大手町1番2号 電話076-424-5931

入場無料

第1部 基調講演

午後2時50分～3時30分

「21世紀の地球環境と国際協力」

●講師 小池 寛治氏 政策研究大学院大学(元地球環境問題担当大使)



略歴 昭和41年 東京大学法学部卒
外務省入省
平成5年 条約局審議官
平成6年 防衛庁国際審議官
平成8年 駐アラブ首長国連邦大使
平成11年 地球環境問題担当大使
平成12年 現職

第2部 パネルディスカッション

午後3時40分～4時40分

「富山より地球環境を考える」

●コーディネーター 岡本 博美氏
外務省国内広報課企画官

●パネリスト 藤木 素士氏
熊本県環境センター館長
筑波大学名誉教授

那須 民江氏
名古屋大学大学院医学研究科
環境労働衛生学教授

共催 富山市民国際交流協会・外務省
お問い合わせ先 ■ 富山市民国際交流協会 富山市丸の内1-4-50 電話076-442-1109

4 交流協会概要

あなたもいろんな活動に
参加しませんか

あなたが交流の主役です



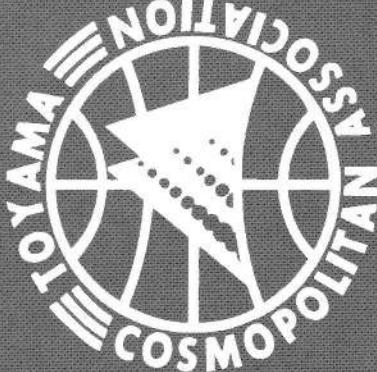
日本語講座受講生(当センターにて)

国際交流・国際協力に関心のある人、新しいことを
始めたいと考えている人に富山市民国際交流協会は、
さまざまな出会いの場を提供します。

会員になると

- 各イベントのスタッフとして、ボランティア活動が
できます。
- 海外・国内研修、講演会、交流会などに参加できます。
- 語学講座で学ぶことができます。
- 協会広報誌 T.C.A-News-(年4回)をお送りします。

T C A



入会のご案内

年会費 (一口)	個人 3,000円 家族 5,000円 団体 10,000円
-------------	--------------------------------------

・当センター窓口で受け付けます

・振込の場合には北陸銀行富山市役所出張所
口座 富山市民国際交流協会
普通預金 No.4076440

お申し込み先

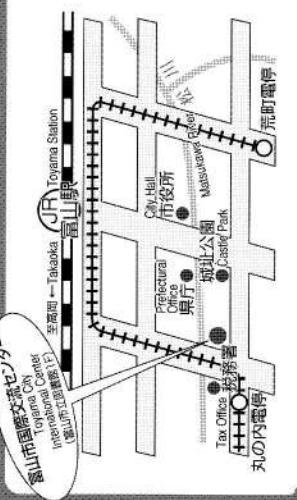
富山市民国際交流協会

〒930-0085 富山市丸の内1丁目4-50
(富山市立図書館1F)

富山市民国際交流センター内
TEL(076)442-1109 FAX(076)442-3807

ホームページアドレス

協会 URL: <http://www.city.toyama.jp/information/825.html>
センター URL: <http://www.city.toyama.jp/institution/755.html>



休館日 毎週月曜日・祝日・12月28日～1月4日

(2000.11.改訂)

ボランティアで育てよう
富山市民国際交流協会

世界中に友達がいれば…

It's nice to have friends from all over the world!

富山市民国際交流協会

国際交流や国際協力活動をボランティアで行う市民団体です。

近年は、国際化が急速に進み、「モノ」の交流から「人と人」の交流、そして「心と心」の交流へと広がっています。当協会は、草の根からの国際親善を通して、世界の平和と繁栄を願って活動の輪をひろげ、また、魅力ある富山市の街づくり・人づくりをめざしています。

富山市民国際交流協会、初の訪中団
友好都市 奈良市と奨学生交換
年 総額 10万円を支給



外国人お嬢さん会

文部省

日本伝統文化講座(垂道)

富山まつりの「朝はあらわ、夕はさわ」に参加

国際交流フェスティバル「世界の国からこなは」

新潟国際交流のつどい

委員会は

総務企画委員会

GENERAL AFFAIRS & PLANNING COMMITTEE

広報委員会

PUBLICATION COMMITTEE

文化交流委員会

CULTURAL EXCHANGE COMMITTEE

姉妹・友好都市委員会

SISTER CITIES COMMITTEE

ボランティア委員会

VOLUNTEER COMMITTEE

国際教養委員会

INTERNATIONAL CULTURAL COMMITTEE

協会では

各種イベント

- 国際交流フェスティバル
- 新春国際交流のつどい
- 各委員会によるイベントなど

情報サービス

外国人の相談業務

語学講座

- 外国人や市民を対象に語学講座開講
- ボランティアによる日本語学習支援
(講師紹介、職員派遣、資料提供等)

その他事業

- 翻訳・通訳者の紹介
- 小・中・高校、地域等の交流事業への支援

T.C.A. founded in Jan. 1993.

T.C.A. NEWS First issued on July 1, 1993.

5 富山市民国際交流協会のあゆみ

富山市民国際交流協会の歩み

1. 平成4年度 (1992年)
5年 (1993年)
1月13日 設立総会（富山市民学習センター）
1月17日 「富山市翼の会10周年記念」（国際交流センター）
4年度の事業 日本語講座及び中国語講座の開催
2. 平成5年度 (1993年)
5年5月13日 平成5年度総会（シックビル）
7月31日～8月1日 協会設立記念事業（市民プラザ）
[国際交流担い手シンポジウム in 富山] 開催
10月16日～17日 第1回国内研修（大垣市）
6年2月10日 第1回春節交歓会1994（国際交流センター）
3. 平成6年度 (1994年)
6年4月30日 第1回海外研修（秦皇島市団体訪問団）
5月12日 平成6年度総会（シックビル）
10月8日 第1回東アジア国際交流フェスティバル（農協会館）
11月26日 第2回国内研修（鯖江市）
7年2月9日 第2回春節交歓会1995（シックビル）
4. 平成7年度 (1995年)
7年5月11日 平成7年度総会（シックビル）
9月23日～29日 第2回海外研修（秦皇島市）
10月28日～29日 第2回東アジア国際交流フェスティバル
(タワー111、シックビル)
8年2月10日 第3回国内研修「浦安市の国際交流を学ぼう」
(国際交流センター)
2月18日 第3回春節交歓会1996（シックビル）
5. 平成8年度 (1996年)
8年5月13日 平成8年度総会（県民会館）
11月23日 第3回東アジア国際交流フェスティバル
(市民プラザ)
9年2月1日 第4回新春国際交流の集い1997（シックビル）
春節交歓会を改称
2月19日～24日 第3回海外研修（タイ、シンガポール）
3月8日～9日 第4回国内研修（呉羽ハイツ）
6. 平成9年度 (1997年)
9年5月15日 平成9年度総会（県民会館）
9月6日～10日 第4回海外研修（韓国）
10月19日 第4回国際交流フェスティバル1997（自遊館）
「富山市民国際交流協会設立5周年記念」
東アジア国際交流フェスティバルを改称
11月22日～23日 第5回国内研修（大阪、京都）
10年2月1日 第5回新春国際交流の集い1998（ボルファート）

7. 平成10年度 (1998年)
- 10年 5月11日 平成10年度総会 (県民会館)
9月15日～22日 第5回海外研修 (秦皇島市 囲碁交流も兼ねる)
- 10月10日～11日 第5回国際交流フェスティバル1998 (市民プラザ)
11月22日～23日 第6回国内研修 (山形県庄内)
- 11年 2月 6日 第6回新春国際交流の集い1999 (シックビル)
8. 平成11年度 (1999年)
- 11年 5月16日 平成11年度総会 (県民会館)
11月 6日～7日 第6回国際交流フェスティバル1999 (市民プラザ)
11月20日～21日 第7回国内研修 (豊田市)
12年 2月 5日 第7回新春国際交流の集い2000 (シックビル)
2月 8日～13日 第6回海外研修 (マレーシア)
9. 平成12年度 (2000年)
- 12年 5月10日 平成12年度総会 (国際会議場)
11月11日～12日 第7回国際交流フェスティバル2000 (市民プラザ)
11月22日～23日 第8回国内研修 (浦安市)
13年 2月 3日 第8回新春国際交流の集い2001 (シックビル)
2月 9日～13日 第7回海外研修 (ハワイ)
10. 平成13年度 (2001年)
- 13年 5月 7日 平成13年度総会 (国際会議場)
11月 3日～4日 第8回国際交流フェスティバル2001 (市民プラザ)
11月24日～25日 第9回国内研修 (上越、新潟市)
14年 1月12日 第9回新春国際交流の集い2002 (シックビル)
11. 平成14年度 (2002年)
- 14年 5月18日 平成14年度総会 (国際会議場)
・協会設立10周年記念講演会
「21世紀の地球環境と国際協力」
・パネルディスカッション
「富山より地球環境を考える」
9月21日～22日 第9回国際交流フェスティバル2002 (市民プラザ)
10月12日～19日 第8回海外研修 (北京、秦皇島、大連、瀋陽)
11月 8日～10日 第10回国内研修 (三鷹、武藏野市)
15年 1月11日 第10回新春国際交流の集い2003 (市民プラザ)

6 事 業 内 容

6 事 業 内 容

平成 5 年 度	
事業名・実績	
1. 設立記念事業	
・国際交流担い手シンポジウムin富山	
	参加 300名
2. 姉妹友好都市交流事業	
・ブラジル研修生との懇談会	
・ダーラム市高校生訪問団10名受入れ（ホーム スティ）	
・モジ市へ衣類寄贈（93,129点）	
3. 国際交流事業（ボランティア委員会協力）	
・中国・ロシア留学生との懇談会	
・'94春節交歓会	参加 125名
・春節切り紙展開催（国際交流センター）	
・市民国際協力講座（3団体共催）7回開催	
	参加延べ 150名
4. 調査研究事業	
・韓国との交流について研究	
・各種研修会へ出席	
5. 研修事業	
・国内研修	
大垣国際交流協会	参加 19名
6. 外国人留学生支援事業	
・日本語講座（週1回 24回）	受講 11名
・中国語講座（週1回 28回）	受講 18名
・翻訳、通訳	
7. 広報出版事業	
・TCA-NEWS（1,000部）4回発行	
・パンフレット（3,000部）作成	

平成 6 年 度	
事業名・実績	
1. 特別記念事業	
・東アジア国際交流フェスティバル'94	
	参加 450名
2. 総務企画事業	
・国内研修	
鯖江市国際交流協会	参加 17名
・ワールドパートナーシップフォーラム、国際協 力セミナーへの参加	参加 12名
3. 姉妹友好都市交流事業	
・海外研修　ダーラム市友好訪問	参加 16名
・市訪問団（秦皇島市、モジ市、ダーラム市） への参加	
・ダーラム市教育訪問団歓迎会	参加 85名
4. 国際交流事業	
・異文化理解講座開催（6回）	
日本舞踊、大正琴、茶道、華道、民謡等	
	参加 250名
・'95春節交歓会	参加 240名
・語学講座	
日本語講座（週1回 32回）	受講 12名
中国語講座（週1回 35回）	受講 33名
・春節切り紙展開催（国際交流センター）	
5. ボランティア事業	
・ボランティア講座	参加 35名
6. 広報事業	
・TCA-NEWS（1,000部）4回発行	

平成7年度	
事業名・実績	
1. 総務企画事業	
・東アジア国際交流フェスティバル'95	参加 500名
・国内研修 浦安市の国際交流を学ぶ	参加 35名
・国際交流研修会等への参加	
2. 姉妹友好都市交流事業	
・海外研修 秦皇島市友好訪問	参加 26名
・秦皇島市訪問団歓迎会	参加 43名
・'95とやま国際フェアに出展（姉妹友好都市コーナー）	
・奨学金贈呈（秦皇島市日本語学習者）	
3. 地域交流事業	
・異文化理解講座開催（7回）日本舞踊、大正琴、茶道、華道、民謡等	参加 201名
・'96春節交歓会	参加 107名
4. ボランティア事業	
・ボランティア講座	参加 45名
・秦皇島市、モジ市へ図書寄贈	
・モジ市へ古着寄贈	
5. 広報事業	
・TCA-NEWS（1,000部）4回発行	
6. 国際教養事業	
・国際教養講座 4講座（9クラス） 受講各クラス10～15名	
・教育懇談会開催（2回）	参加 27名
・国際交流市民講座	参加 45名
・語学講座 日本語講座（週1回 38回）	受講 18名
中国語講座（週1回 40回）	受講 32名
ハングル講座（週1回 38回）	受講 17名

平成8年度	
事業名・実績	
1. 総務企画事業	
・東アジア国際交流フェスティバル'96	参加 280名
・国内研修 国際交流担い手ネットワーク会議	参加 24名
・'96とやま国際フェア出展	
・国際交流研修会等への参加	
2. 姉妹友好都市交流事業	
・海外研修 タイ・シンガポール友好訪問	参加 15名
・姉妹友好都市訪問団歓迎会 ダーラム市及び秦皇島市訪問団	
	参加延べ 108名
・奨学金贈呈（秦皇島市日本語学習者）	
3. 地域交流事業	
・日本伝統文化の紹介（7回） 日本舞踊、大正琴、茶道、華道、民謡踊	参加 198名
・新春国際交流のつどい'97	参加 116名
・バングラデシュ写真展（2回）	
4. ボランティア事業	
・ボランティア講座（2回）	参加 64名
・福祉施設訪問（外国人による）	5名
・ホームステイ受入れ	6名
・使用済みテレホンカード、書き損じ葉書、古切手収集	
5. 広報事業	
・TCA-NEWS（1,000部）4回発行	
・パンフレット（1,000部）作成	
6. 国際教養事業	
・国際教養講座 4講座（9クラス） 受講各クラス8～15名	
・教養懇談会・研修会（4回）	参加延 82名
・JET青年との近郊名所探訪	参加 28名
・国際教養サロンクラブ	
・国際交流講演会	参加 70名
7. 語学講座	
・日本語講座（週1回 40回）	受講 20名
・中国語講座（週1回 40回）	受講 31名
・ハングル講座（週1回 34回）	受講 9名

平成 9 年度	
事業名・実績	
1. 総務企画事業	
・富山市民国際交流協会設立 5 周年記念式典	参加 150名
・国際交流フェスティバル'97	参加 880名
・国内研修（大阪市、京都市）	参加 19名
・'97とやま国際フェア出展	
・国際交流カレッジ（2回）	参加延 54名
・新春国際交流のつどい'98	参加 170名
2. 姉妹友好都市交流事業	
・海外研修 韓国友好訪問	参加 12名
・秦皇島市訪問団歓迎会、懇談会（3回）	参加延 62名
・奨学金贈呈（秦皇島市日本語学習者）	
・姉妹友好都市懇話会（3回）	
3. 地域交流事業	
・日本伝統文化の紹介（7回）	
日本舞踊、大正琴、華道、茶道、座禅等	参加 320名
・地図で歩く世界の旅（2回）	参加 41名
4. ボランティア事業	
・ボランティア講座（2回）	参加 46名
・講演会	参加 25名
・外国人お嫁さん交流会（4回）	参加 82名
・ホームスティ受入れ	2名
・使用済みテレホンカード、書き損じ葉書、古切手収集	
5. 広報事業	
・TCA-NEWS（1,000部）4回発行	
・協会設立 5 周年記念テレホンカード作成	
6. 国際教養事業	
・一般研修講座 4 講座（9クラス）	受講各クラス 8～15名
・国際教養合同講座（2回）	参加延 75名
・JET青年との近郊名所探訪	参加 26名
・国際教養サロンクラブ（11回）	参加 95名
・国際交流講演会	参加40名
7. 語学講座	
・日本語講座（週1回 36回）	受講 17名
・中国語講座（週1回 34回）	受講 27名
・ハングル講座（週1回 34回）	受講 10名
・ボランティアによる日本語支援（講師9名）	受講 25名

平成 10 年度	
事業名・実績	
1. 委員会合同事業	
・国際交流フェスティバル'98	参加 2,500名
・新春国際交流のつどい'98	参加 102名
2. 総務企画事業	
・国内研修（鶴岡市）	参加21名
・'98とやま国際フェア出展	
・国際交流カレッジ	参加 10名
3. 姉妹友好都市交流事業	
・海外研修 秦皇島市友好訪問	参加 24名
・秦皇島市・大連市経済交流訪問	参加 6名
・秦皇島市、シンガポール日本文化協会歓迎会	参加 52名
・奨学金贈呈（秦皇島市日本語学習者）	
4. 地域交流事業	
・日本伝統文化の紹介（7回）	
日本舞踊、大正琴、華道、茶道、座禅等	参加 282名
・地図で歩く世界の旅（3回）	参加 95名
5. ボランティア事業	
・ボランティア講座	参加 27名
・国際ボランティア入門講座（4回）	参加延 75名
・外国人お嫁さん交流会（4回）	参加 55名
・使用済みテレホンカード、書き損じ葉書、古切手収集	
6. 広報事業	
・TCA-NEWS（1,000部）4回発行	
7. 国際教養事業	
・一般研修講座 4 講座（9クラス）	受講各クラス 8～15名
・国際教養合同講座（2回）	参加延 50名
・JET青年との近郊名所探訪	参加 27名
・国際教養サロンクラブ（11回）	参加 98名
・ダーラム市中学生訪問団との懇談会	参加 24名
8. 語学講座	
・日本語講座（週1回 34回）	受講 27名
・中国語講座（週1回 34回）	受講 27名
・ハングル講座（週1回 37回）	受講 10名
・ボランティアによる日本語支援（講師10名）	受講 39名

平成 11 年度		平成 12 年度	
事業名・実績		事業名・実績	
1. 委員会合同事業		1. 委員会合同事業	
・国際交流フェスティバル'99	参加 3,000名	・国際交流フェスティバル2000	参加 2,700名
・新春国際交流の集い2000	参加 112名	・新春国際交流の集い2001	参加 133名
2. 総務企画事業		2. 総務企画事業	
・国内研修 豊田市	参加 13名	・国内研修 浦安市	参加 21名
・'99とやま国際フェアー出展		・2000とやま国際フェアー出展	
・国際交流カレッジ	参加 17名	・国際交流カレッジ	参加 25名
3. 姉妹友好都市交流事業		3. 姉妹友好都市交流事業	
・海外研修 マレーシア友好訪問	参加 25名	・海外研修 ハワイ友好訪問	参加 19名
・秦皇島市友好訪問団歓迎会	参加 45名	・ダーラム市友好訪問団歓迎会	参加 78名
・友好親善奨学金贈呈（秦皇島市日本語学習者）		・秦皇島市友好訪問団歓迎会	参加 48名
4. 地域交流事業		・ハワイ日系人連合協会友好訪問団	
・日本伝統文化紹介 6回	参加 185名	・友好親善奨学金贈呈（秦皇島市日本語学習者）	
おわら・華道・茶道・座禅他			
・交流会 1回	参加45名	4. 文化交流事業	
・地図で歩く世界の旅 1回（ラオス）	参加 16名	・日本伝統文化紹介 5回	参加 154名
		日本舞踊・おわら踊り・華道・茶道他	
5. ボランティア事業		・交流会 1回	参加 25名
・ボランティア講座	参加 25名	・地図で歩く世界の旅 1回（ケニア）	参加 16名
・外国人お嫁さん交流会	参加 100名		
・ホームスティ受入（マレーシア青年）	5名	5. ボランティア事業	
・使用済みテレホンカード・書き損じはがき、		・ボランティア講座	参加 20名
古切手収集		・外国人お嫁さん交流会	参加 140名
6. 広報事業		・ホームスティ受入（アセアン青年）	4名
・TCA-NEWS（1,000部）4回発行		・使用済みテレホンカード・書き損じはがき、	
7. 国際教養事業		古切手収集	
・一般研修講座（4講座9クラス）	受講各クラス 8～15名	6. 広報事業	
語学サークル 2クラス		・TCA-NEWS（1,000部）4回発行	
・集中講座（日本語・中国語）	受講 50名	・協会パンフレット作成（2,000部）	
・国際教養サロンクラブ（10回）	参加 98名	7. 国際教養事業	
・JET青年との近郊名所探訪	参加 28名	・一般研修講座（5講座12クラス）	受講各クラス 8～15名
8. 語学講座		・多国言語文化交流サークル	受講 120名
・日本語講座（週1回 36回）	受講 28名	・集中講座（中国語 6回）	受講 18名
・中国語講座（週1回 36回）	受講 22名	・国際教養サロンクラブ（10回）	参加 90名
・ハングル講座（週1回 36回）	受講 19名	・JET青年との近郊名所探訪	参加 30名
・ボランティアによる日本語支援（講師17名）	受講 43名	8. 語学講座	
9. その他		・日本語講座（週1回 36回）	受講 37名
・相談業務		・中国語講座（週1回 35回）	受講 18名
・翻訳・通訳業務		・ハングル講座（週1回 35回）	受講 28名
・交流事業への支援		・ボランティアによる日本語支援（講師20名）	受講 60名
・ダーラム市富山市派遣団に参加			
・秦皇島市研修生支援			
・募金活動			

平成 13 年度	
事業名・実績	
1. 委員会合同事業	
・国際交流フェスティバル2001 参加 2,000名	
・新春国際交流の集い2002 参加 145名	
・JICA青年招聘事業（中国青年） 24名	
2. 総務企画事業	
・国内研修 上越市・新潟市 参加 17名	
・2001とやま国際フェアー出展	
・国際交流カレッジ 参加 34名	
3. 姉妹友好都市交流事業	
・秦皇島市友好訪問団歓迎会 参加 97名	
・友好親善奨学金贈呈（秦皇島市日本語学習者）	
4. 文化交流事業	
・日本伝統文化紹介 5回 参加 104名 華道・おわら踊り・ガラス工芸他	
・交流会 2回 参加 95名	
・もっと知ろう世界の街 3回 参加 90名	
5. ボランティア事業	
・ボランティア講座 参加 30名	
・外国人お嫁さん交流会 参加 171名	
・使用済みテレホンカード・書き損じはがき、古切手収集	
6. 広報事業	
・TCA-NEWS (1,000部) 4回発行	
7. 国際教養事業	
・一般研修講座（3講座13クラス） 受講各クラス 8～15名	
・国際教養サロンクラブ（10回） 参加 90名	
・JET青年との近郊名所探訪 参加 41名	
8. 語学講座	
・日本語講座（週1回 36回） 受講 30名	
・中国語講座（週1回 36回） 受講 17名	
・ハングル講座（週1回 36回） 受講 30名	
・ボランティアによる日本語支援（講師 23名） 受講 93名	
・日本語ボランティア登録者研修 10回 受講 70名	
・夏期集中日本語講座（講師 6名） 受講 19名	
9. その他	
・相談業務	
・翻訳・通訳業務	
・交流事業への支援	
・秦皇島市研修生支援	
・募金活動	

平成 14 年度	
事業名・実績	
1. 合同事業	
・10周年記念事業 講演及びパネルディスカッション 参加 150名	
・国際交流フェスティバル2002 参加 2,500名	
・新春国際交流の集い2003 参加 168名	
・ALT Welcome Party 参加 41名	
・2002ワールドカップサッカークロアチア代表チーム富山キャンプ支援協力	
・テーマ別タウンミーティングへの参加	
・ホームページの作成	
・10周年記念誌作成	
2. 総務企画事業	
・国内研修 三鷹市・武蔵野市 参加 22名	
・2002とやま国際フェアー出展 参加 31名	
・国際交流カレッジ	
3. 姉妹友好都市交流事業	
・秦皇島市友好訪問 参加 18名	
・秦皇島市友好訪問写真展	
・秦皇島市友好訪問団歓迎会 参加 34名	
・友好親善奨学金贈呈（秦皇島市日本語学習者）	
4. 文化交流事業	
・日本伝統文化紹介 9回 参加 252名 座禅・民謡・琴鑑賞・カラオケ・七宝焼き他	
・交流会 2回 参加 54名	
・もっと知ろう世界の街 2回 参加 60名	
5. ボランティア事業	
・交流会 参加 134名	
・ホームビズット（富山大学 2回） 参加 8名	
・ホームステイ（米国教育者） 参加 17名	
・使用済みテレホンカード・書き損じはがき、古切手収集	
6. 広報事業	
・TCA-NEWS (1,300部) 4回発行	
7. 国際教養事業	
・一般研修講座（13講座） 受講各クラス 8～15名	
・JET青年との近郊名所探訪 参加 30名	
8. 語学講座	
・日本語講座（週1回 36回） 受講 26名	
・中国語講座（週1回 36回） 受講 17名	
・ハングル講座（週1回 36回） 受講 25名	
・ボランティアによる日本語支援（講師 22名） 受講 92名	
・日本語ボランティア登録者研修 10回 受講 100名	
・日本語ボランティア研修セミナー 受講 25名	
・夏期集中日本語講座（講師16名） 受講 25名	
9. その他	
・相談業務	
・翻訳・通訳業務	
・交流事業への支援	
・秦皇島市研修生支援	
・協会見学	

資 料 集

(1) 富山市民国際交流協会役員名簿

名前	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	14年度
会長	久保田 照雄										
副会長	金井 澄子										
理事	田中儀一郎										
"	水口 昭一郎										
"	大崎和紀										
"	越智敏之										
"	新田 八朗										
"	橋本 敏宏										
"	藤田 秀樹										
"	堀沢伸一										
"	政二俊子										
"	増田信彦										
"	宮崎重美										
"	横田茂										
"	吉友嘉久子										
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
監事	小川 弘										
"	吉田 幸治										
参与	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
事務局長	松岡 一										

(2) 富山市民国際交流協会規約

(名 称)

第1条 この会は、富山市民国際交流協会（以下「協会」という。）と称する。

(事 務 所)

第2条 協会の事務所は、富山市丸の内一丁目4番50号に置く。

(目 的)

第3条 協会は、富山市民と諸外国の人々との友好親善を基調として、教育、文化、スポーツ、産業経済等の広範な国際交流を推進し、国際感覚豊かな人材の育成と国際化に対応したまちづくりを図り、もって富山市の発展に寄与することを目的とする。

(事 業)

第4条 協会は、前条に規定する目的を達成するために、次に掲げる事業を行う。

- (1) 姉妹友好都市との市民交流事業
- (2) 国際交流に関する事業の計画及び実施
- (3) 国際交流に関する情報の収集・提供及び調査研究
- (4) 国際交流団体との連携及び協力
- (5) 国際交流ボランティアの育成
- (6) 市民の国際交流活動への支援
- (7) その他協会の目的を達成するために必要な事業

(会員の種類及び会費)

第5条 協会の会員の種類及び会費は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 個人会員 年額 1口 3,000円
- (2) 家族会員 年額 1口 5,000円
- (3) 団体・法人会員 年額 1口 10,000円

(役 員)

第6条 協会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1人
- (2) 副会長 3人
- (3) 理事 30人以内
- (4) 監事 2人

(名誉顧問、顧問及び参与)

第7条 協会に名誉顧問、顧問及び参与を置くことができる。

- 2 名誉顧問、顧問及び参与は、理事会の承認を経て会長が委嘱する。
- 3 名誉顧問、顧問及び参与は、協会の運営に関し助言する。

(役員の選任等)

第8条 役員のうち、理事及び監事は総会において会員の中から選任し、会長及び副会長は理事会

において互選する。

2 理事及び監事は、相互に兼ねることができない。

(役員の職務)

第9条 役員の職務は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 会長は、協会を代表し、会務を総理するとともに、理事会及び総会の議長となる。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、あらかじめ会長が指定した順序により、その職務を代理する。
- (3) 理事は、理事会を構成し、協会の運営について協議する。
- (4) 監事は、協会の会計を監査する。

(役員の任期)

第10条 役員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 補欠又は増員により選任された役員の任期は、前任者又は現任者の残任期間とする。
- 3 役員は、任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(総 会)

第11条 総会は、年1回会長が招集する。ただし、会長が必要と認めたとき、又は会員の3分の1以上の者から請求があったときは、臨時に開催することができる。

- 2 総会は、第8条に定めるもののほか、次に掲げる事項を議決する。
 - (1) 規約の制定及び改廃
 - (2) 事業計画及び収支予算の承認
 - (3) 事業報告及び収支決算の承認
 - (4) その他協会の運営に関する重要な事項
- 3 総会の議事は、出席会員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(理 事 会)

第12条 理事会は、この規約で別に定めるもののほか、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 総会に付議すべき事項
 - (2) 総会の議決した事項の執行に関する事項
 - (3) その他会長が必要と認めた重要な会務
- 2 理事会は、会長が必要と認めたときに招集する。
 - 3 会長は、理事会の会議に必要があると認めたときは、関係者の出席を求めることができる。

(専門委員会)

第13条 会長は、協会の事業を推進するため、理事会の承認を経て、専門委員会をおくことができる。

- 2 専門委員会は、それぞれの所管ごとに事業を企画・立案し、その実施に当たる。
- 3 専門委員会に委員長及び副委員長を置く。
- 4 前項の委員長及び副委員長は、専門委員会において互選する。
- 5 委員長及び副委員長の任期は、1期2年とし、3期を限度とする。
- 6 第10条第2項及び第3項の規定は、第3項の委員長及び副委員長について準用する。
- 7 第3項の委員長は、第8条第1項の規定にかかわらず、その任期の間、協会の理事を兼ねるものとする。

8 前各項に定めるもののほか、専門委員会に関し必要な事項は、会長が、理事会の承認を経て別に定める。

(経 費)

第14条 協会の経費は、会費、寄付金、補助金その他の収入をもって充てる。

(会計年度)

第15条 協会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(事 務 局)

第16条 協会の事務を処理するため、協会に事務局を置く。

2 事務局に、事務局長その他必要な職員を置くことができる。

(委 任)

第17条 この規約に定めるもののほか、協会の運営に関し必要な事項は、会長が理事会の承認を経て別に定める。

附 則

1 この規約は、平成5年1月13日から施行する。

2 協会の設立当初の役員は、第8条第1項の規定にかかわらず、別表のとおりとし、その任期は、第10条第1項の規定にかかわらず、平成6年3月31日までとする。

3 協会の設立当初の会計年度は、第15条の規定にかかわらず、この規約の施行の日から平成5年3月31日までとする。

4 第13条第3項に規定する専門委員会の委員長の職に新たに就任する者については、第8条第1項の規定にかかわらず、その者が委員長の職に就任する日から同項の規定により総会において理事に選任される日までの間は、理事に選任されたものとみなす。

5 第13条第5項の任期の計算は、平成14年4月1日以降に委員長に就任したものから適用する。

平成14年5月18日 一部改正

(3) 富山市民国際交流協会・秦皇島市人民対外友好協会 友好親善奨学金制度に関する協定書

日本国・富山市・富山市民国際交流協会（以下「富山市協会」という。）と中華人民共和国・河北省・秦皇島市・秦皇島市人民対外友好協会（以下「秦皇島市協会」という。）とは、両市の友好関係発展のため奨学金制度を創設することについて、次のとおり協定を締結する。

第1 この制度は、富山市協会が秦皇島市内の大学等で日本語を学ぶ学生に対し、奨学金を支給し、日本語を学ぶ学生を支援することによって、将来の富山市と秦皇島市、ひいては日本国と中華人民共和国との架け橋となる人材の育成に資することを目的とする。

第2 富山市協会は、当分の間、奨学金制度を実施するものとし、毎年度必要な経費を負担するものとする。

第3 秦皇島市協会は、奨学金受給者の募集及び選考並びに奨学金支給事務等を行うものとする。

第4 この協定の実施に関し必要な事項は、富山市協会と秦皇島市協会が協議して定める富山市民国際交流協会・秦皇島市人民対外友好協会奨学金支給要綱による。

この協定書の締結を証するため、日本語及び中国語の協定書をそれぞれ2通作成し、富山市協会会长及び秦皇島市協会会长が署名のうえ、双方が各1通を保有する。

この協定は、締結の日から実施するものとする。

1995年9月24日

富山市民国際交流協会

会長 久保のぶ雄

秦皇島市人民対外友好協会

会長



關於秦皇岛市人民对外友好协会・富山市民国际交流协会友好亲善奖学金制度的协定书

中华人民共和国・河北省・秦皇岛市人民对外友好协会（以下称“秦皇岛市协会”）和日本国・富山市・富山市民国际交流协会（以下称“富山市协会”）为了促进两市友好关系的发展，就设立奖学金制度一事，双方缔结如下协定。

第1. 该制度旨在通过资助有志于学习日语的学生，造就未来的能成为富山市和秦皇岛市乃至日本国和中华人民共和国之间的友好桥梁的人才。该奖学金的授与对象是在秦皇岛市的大学等攻读日语的学生。

第2. 富山市协会在规定期间，实施奖学金制度。每年度负担所需的全部经费。

第3. 秦皇岛市协会负责办理奖学金获得者的评选及奖学金支付等具体事务。

第4. 有关此协定的实施事项，均按照秦皇岛市协会和富山市协会商讨决定的秦皇岛市人民对外友好协会、富山市民国际交流协会奖学金支付纲要来实行。

为了证明协定书的缔结，该协定书正本两份，用日、中文作成，经秦皇岛市协会会长及富山市协会会长签名后生效。双方各持正本一份（日文、中文）。

此协定自缔结之日起实施。

1995年9月24日

秦皇岛市人民对外友好协会

会长

富山市民国际交流协会

会长

(4) 会員の推移、国内外研修について

◇会員

	平成4	平成5	平成6	平成7	平成8	平成9	平成10	平成11	平成12	平成13	平成14
個人(人)	326	356	365	432	438	486	527	551	569	562	532
家族(組)									4	23	32
団体・法人	46	60	69	64	71	72	65	63	61	60	60

◇国内研修

	研修会	期間	参加者	摘要
第1回	(財)大垣国際交流協会	平成5年10月16日～17日	19人	
第2回	鯖江市国際交流協会	平成6年11月26日	17人	
第3回	浦安市の国際交流を学ぼう	平成8年2月10日	35人	富山市国際交流センター
第4回	国際交流担い手ネットワーク会議	平成9年3月8日～9日	24人	呉羽ハイツ
第5回	大阪国際センター 京都市国際交流協会	平成9年11月22日～23日	19人	
第6回	庄内国際交流協会	平成10年11月22日～23日	21人	
第7回	(財)豊田市国際交流協会	平成11年11月20日～21日	13人	
第8回	浦安市国際交流協会	平成12年11月22日～23日	21人	
第9回	上越国際交流協会 (財)新潟市国際交流協会	平成13年11月24日～25日	17人	
第10回	(財)三鷹国際交流協会 武蔵野市国際交流協会	平成14年11月8日～10日	22人	

◇海外研修

研修先	期間	参加者
ダーラム市友好訪問団（富山市・ダーラム市姉妹都市提携5周年記念）	平成6年10月15日～24日	16人
秦皇島市友好訪問団「富山市民国際交流協会・秦皇島市友好記念奨学金に関する協定書」	平成7年9月23日～29日	26人
タイ・シンガポール親善訪問団（YKKタイ社、星日文化協会）	平成9年2月19日～24日	15人
韓国友好訪問団（慶尚南道韓日親善協会、慶尚南道昌原市）	平成9年9月6日～10日	12人
秦皇島市友好訪問団（囲碁交流）	平成10年9月15日～22日	24人
マレーシア友好訪問団（マレーシ亞日本語協会、立山オートマシーン・マレーシア）	平成12年2月8日～13日	25人
ハワイ友好訪問団（ハワイ日系人連合協会、ハワイ日本文化センター）	平成13年2月9日～13日	19人
協会設立10周年記念秦皇島市友好訪問団（北京、秦皇島、大連、瀋陽）	平成14年10月12日～19日	18人

(5) 富山県外国人登録国籍別市町村別人員表

		富山県		平成14年12月31日現在			
総数		中国		米国		無国籍	
		人口	在留者	人口	在留者	人口	在留者
総 数	10,833	6,411	3,371	1,2	9,3742	3,1	55
富 山 市	3,720	2,162	281	1,2	1,550	2,1	31
高 鹿 市	2,436	1,138	8	6,1,538	11	286	
新 湾 市	610	3	1	2,290	2	57	
魚 津 市	283	2		69		86	
氷 見 市	268			39	1	99	
滑 川 市	155	1		45	1	34	
黒 部 市	288			98	2	90	
砺 波 市	405	1		196	1	117	
小矢部市	414	1	1	276		65	
大沢野町	143	1		8		22	1
大 山 町	622			1	1	16	
舟 端 村	2					2	
上 市 町	185			45	1	67	
立 山 町	127	1		8		47	
宇経月町	52			28	1	11	
入 遊 町	145			72	1	24	
朝 日 町	96			3	39		
八 尾 町	158			30	1	18	
婦 中 町	218			14	1	80	
下 村	3						
山 田 村	5			1			
細 入 村	7			4			
小 杉 町	362	1	2	218	1	2	
大 門 町	26			7		3	
下 村	3						
大 榎 町	46			20	8		
城 端 町	70			26	35		
平 村	1						
上 平 村	4			3			
利 賀 村	21			15			
庄 川 町	16	1		5	1		
庄 波 町	60	1		10	37		
井 口 村	2						
福 野 町	114			13	63		
福 光 町	213			70	95		
福 国 町	118			58	42		

(6) 県・市町村の姉妹友好提携状況

団体名	提携先		提携年月日
	国名	地域・都市名	
富山県	中華人民共和国	遼寧省	1984. 5. 9
	ブラジル連邦共和国	サンパウロ州	1985. 7. 18
	アメリカ合衆国	オレゴン州	1991. 10. 19
	ロシア連邦	沿海地方	1992. 3. 26
富山市	ブラジル連邦共和国	サンパウロ州 モジダスクルーゼス市	1979. 11. 8
	中華人民共和国	河北省秦皇島市	1981. 5. 7
	アメリカ合衆国	ノースカロライナ州 ダーラム市	1989. 6. 13
高岡市	ブラジル連邦共和国	サンパウロ州 ミランドポリス市	1974. 10. 19
	アメリカ合衆国	インディアナ州 フォートウェーン市	1977. 4. 8
	中華人民共和国	遼寧省錦洲市	1985. 8. 10
魚津市	タイ王国	チェンマイ県チェンマイ市	1989. 8. 8
滑川市	アメリカ合衆国	イリノイ州 シャンバーグ市	1997. 7. 4
黒部市	オランダ王国	フリースラント州 スネーク市	1970. 9. 10
	アメリカ合衆国	ジョージア州メーコン市	1977. 5. 10
砺波市	トルコ共和国	イスタンブール県ヤロバ市	1989. 10. 3
	中華人民共和国	遼寧省盤錦市	1991. 4. 25
	オランダ王国	南ホーランド州リッセ市	1992. 4. 21
大沢野町	オーストラリア	ニューサウスウェールズ州 ウェリントン市	1992. 8. 24
入善町	アメリカ合衆国	オレゴン州 フォレストグローブ市	1989. 5. 12
	中華人民共和国	中国・新疆ウイグル自治区哈密市	1997. 6. 5
小杉町	アメリカ合衆国	ニューヨーク州サリバン郡	1990. 10. 18
利賀村	ギリシャ共和国	フォキス県デルフィ市	1986. 6. 14
	ネパール王国	ムスタン県ツクチエ村	1989. 1. 11
福光町	中華人民共和国	浙江省紹興市	1983. 3. 21

※中国との提携は姉妹都市（県省）といわず、友好都市（県省）という。

富山市民国際交流協会設立10周年記念誌

発行責任者 久保田 照 雄

編集委員 小川 弘

北東俊夫

岡田昌代

藤永滋

梅澤信義

姜慶淑

神保正

発行日 2003年3月

富山市民国際交流協会

〒930-0085 富山市丸の内1丁目4番50号

富山市国際交流センター(市図書館1階)内

TEL (076)442-1109 FAX (076)442-3807

e-mail info@tca-toyama.jp